学習内容

令和５年度入学　１７期生

福島看護専門学校

基礎分野	科　目	物理学	単位数 時間	1単位 30時間
	単元名		時期	1年次 前期
担当講師	吉田 宏　　大学准教授（物理学）			
授業目標	本授業では以下を目標とする ①力学の原理・法則が、より安全で楽な姿勢・動作を可能にするための技術「ボディメカニクス」として、看護の現場でいかに応用されているか説明できる。 ②「圧力」に関する基本的な法則が、ドレナージや点滴や血圧測定等の医療現場でどのように生かされているか説明できる。 ③授業全体を通して様々な量を扱うことによって、数量的な感覚を身につける。			

回	内　　容	方法
1	単位	講義
2	力、ベクトルとスカラー、ベクトルの合成と分解	講義
3	運動の法則、摩擦力	講義
4	トルク、テコの原理	講義
5	体の中のテコ	講義
6	腰を曲げるときの腰の負担、力学的安定	講義
7	仕事とエネルギー	講義
8	運動量と衝撃力	講義
9	ボディメカニクス	講義
10	圧力	講義
11	中間試験、体が圧力でつぶれないのは	講義
12	気体の法則、呼吸の物理、ドレナージ	講義
13	サイホンの原理、流れの物理	講義
14	点滴の物理	講義
15	血圧測定の物理	講義

テキスト	完全版 ベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学-（学研）※isho.jp
参考文献 参考書等	看護学生のための物理学第4版（医学書院） ベッドサイドに生かす単位・量・数式のはなし（Gakken）
評価方法	筆記試験（中間試験・本試験の結果より100点満点で評価）
履修上のアドバイス	質問は大歓迎です。質問をして、解らなかったことを1つ1つ理解していきましょう。授業で学んだ物理の知恵を医療現場の中で生かせるような学習にしてほしいと考えています。

基礎分野	科　目	ロジカル・ライティング	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	菅原 宏道　　大学学術研究員（文学研究科）			
授業目標	(1)意見文（小論文）がどのような文章であるかを理解することができるようになる。(2)意見文において、「話題」「主張」「理由」「説明」という四要素がどのような役割を担うのかを理解することができるようになる。(3)与えられた問いに対して、四要素を用いて、読み手が理解できる意見文、ないしは、読み手から尊重される意見文を書くことができるようになる。			

回	内　　容	方法
1	イントロダクション：意見、意見文、意見文を書く理由について理解する	講義
2	第 2 章：意見文のつくり 1	講義
3	第 2 章：意見文のつくり 2	講義
4	第 3 章：話題と主張を書く 1	講義
5	第 3 章：話題と主張を書く 2	講義
6	第 4 章：理由を書く 1	講義
7	第 4 章：理由を書く 2	講義
8	第 4 章：理由を書く 3	講義
9	第 5 章：説明を書く 1	講義
10	第 5 章：説明を書く 2	講義
11	第 5 章：説明を書く 3	講義
12	第 6 章：意見文をチェックする 1	講義
13	第 6 章：意見文をチェックする 2	講義
14	第 6 章：意見文をチェックする 3	講義
15	これまでのまとめ、他（予定）	講義

テキスト	『はじめよう、ロジカル・ライティング』名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科（編）（ひつじ書房）
参考文献 参考書等	『「科学的思考」のレッスン』戸田山和久（著）、NHK 出版
評価方法	課題、試験（100 点満点で評価）。評価基準は「授業目標」への達成度とします。
履修上の アドバイス	学んだことを整理して理解し、知識や技術として定着させる復習を重視することを勧めます。また、論理的な文章の作成法は広い分野に適用可能ですので、この講義で学んだことを、他の科目の提出物の作成などに活かしてみることも勧めます。

基礎分野	科　目	看護と情報	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期
担当講師	篠田 伸夫　　大学教授（共生システム理工学類）			
授業目標	コンピュータ活用に必要な知識として、情報の表現および処理方法･情報セキュリティの考え方について学ぶ。後半では看護に関連した資料を題材にしてデータ処理の覚え方および操作方法について学習する。			

回	内　　容	方法
1	コンピュータとは	講義
2	情報の符号化	講義
3	パスワードとセキュリティ	講義
4	表計算の基礎（1）基本操作	講義
5	表計算の基礎（2）セルの番地	講義
6	表計算の基礎（3）カレンダー作成	講義
7	表計算の基礎（4）表とグラフ（1）表とグラフの種類	講義
8	表計算の基礎（5）表とグラフ（2）グラフの適切な表現	講義
9	表計算の基礎（6）グラフと式・関数	講義
10	表計算の基礎（7）統計（1）記述統計の覚え方	講義
11	表計算の基礎（7b）統計（2）代表値	講義
12	表計算の基礎（8）統計（3）散布度	講義
13	表計算の基礎（8）統計（4）二変数の統計：創刊と回帰	講義
14	表計算の基礎（8）統計（5）二変数の統計：連関とクロス集計	講義
15	表計算の基礎（8）統計（6）まとめ	講義

テキスト	適宜資料を配布
参考文献 参考書等	適宜資料を配布
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	積極的にコンピュータの操作・動作確認をしながら受講することが望ましい。

基礎分野	科　目	くらしと社会	単位数 時間	1単位 30時間
	単元名		時期	1年次 前期
担当講師	牧田 実　　大学教授（人間発達文化学類）・学術修士			
授業目標	社会学の視角から「くらし」をとりまく現代社会の特質と病理を論じ、人々のくらしと医療・看護をめぐる今日的な問題にアプローチする			

回	内　　容	方法
1	くらしと社会の基礎理論～地域社会（コミュニティ）とはなにか	講義
2	くらしと社会病理（1）～近代社会と自殺	講義
3	くらしと社会病理（2）～現代日本の自殺	講義
4	くらしと社会病理（3）～人間と自由	講義
5	くらしと社会病理（4）～自由からの逃走	講義
6	くらしと社会病理（5）～人間と孤独	講義
7	くらしと社会病理（6）～孤独な群衆	講義
8	くらしを捉える視点（1）～潜在的機能	講義
9	くらしを捉える視点（2）～予言の自己成就	講義
10	くらしと医療・看護（1）～近代西洋医学の功罪	講義
11	くらしと医療・看護（2）～病気と死の臨床社会学	講義
12	くらしと医療・看護（3）～生命倫理を考える	講義
13	くらしと医療・看護（4）～患者の権利	講義
14	くらしと医療・看護（5）～医療・看護のイデオロギー	講義
15	まとめとふりかえり	講義

テキスト	適宣資料の配布
参考文献 参考書等	看護学生のための日本看護史（医学書院） 系統看護学講座 社会学（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
評価方法	筆記試験（100点満点で評価）
履修上のアドバイス	人間の「くらし」は机上ではなく、現実の社会にあり、みなさんの日常とともにあります。授業で学んだ視点で自分のくらしを見つめ直してみることが大切です。

基礎分野	科　目	心理学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	五十嵐 敦　大学名誉教授(発達心理学・職業心理学)・教育学修士			
授業目標	人間行動の諸特性について、行動科学としての心理学の基礎を学ぶ。特に、健康や医療看護との関連から心理的メカニズムについて取り上げる。			

回	内　　容	方法
1	心理学とは、心理を理解することとは、感覚	講義
2	感覚と知覚の心理	講義
3	学習と記憶の心理	講義
4	記憶と関係諸要因、感情との関係	講義
5	感情・動機・要求・欲求の心理	講義
6	性格の心理	講義
7	性格の成熟と知的機能、創造性	講義
8	発達の心理-乳幼児期・児童期-	講義
9	発達の心理-青年期～高齢者-	講義
10	発達と社会・集団	講義
11	社会・集団の心理-社会的スキル・集団心理-	講義
12	患者の理解、看護職者の理解	講義
13	臨床心理学の基礎と心理アセスメント	講義
14	カウンセリングと心理療法	講義
15	認知行動療法、家族療法、行動科学まとめ	講義

テキスト	看護学生のための心理学（医学書院）
参考文献 参考書等	よくわかる心理学（ミネルヴァ書房） 心理学で何がわかるか（ちくま新書）
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	身近なわたしたちの生活行動を様々な角度から考えられるように、各種データや情報のとらえ方を大切にすること。

基礎分野	科　目	看護・健康教育	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名				
授業目標	医療看護に従事する者として身につけたい「教育原理」と「一般教養」について学ぶこと。 8 回の講義を集中して受講し、「自ら考える授業」を目標とする。	①患者や家族への生活･退院指導を通して、臨床での実践へ結びつける。 ②がん薬物療法における患者教育について理解し、教育対象によって異なる指導方法やその特徴を捉えることができる。 ③糖尿病の病態生理を理解し、自己管理教育に必要な知識･技術･態度を学び、指導方法を考えることができる。		
時期/時間	3 年次前期/15 時間	3 年次前期/15 時間		
担当講師 実務経験	古関 隆史 高等学校教諭一種 県立高校・看護学校 校長	田島 一樹　心不全看護認定看護師　総合病院 12 年 野地 静香　がん化学療法認定看護師　総合病院 20 年 國分 朋子　看護師　総合病院 19 年		

回	内　容	方法	講師
1	「教育論」を学ぶ意義	講義	古関
2	人間の成長と教育の意義	講義	古関
3	家庭教育の持つ意味	講義	古関
4	社会教育の持つ意味	講義	古関
5	学校教育の持つ意味	講義	古関
6	教育の目的「自分の目指す看護師像」	講義	古関
7	学習指導と生活指導	講義	古関
7.5	まとめ　教育評価（45 分）	講義	古関
1	患者・家族教育とは	講義	田島
2	多職種協働による患者教育	講義	田島
2.5	退院指導の実際（45 分）	講義	田島
1	患者教育の基礎知識、セルフケアマネジメント支援について	講義	野地
2	アセスメントと指導の実際	講義	野地
2.5	事例を用いてグループワーク、まとめ（45 分）	講義 GW	野地
1	①糖尿病の病態生理について②糖尿病患者に対する自己管理教育について	講義	國分
2	事例をもとに糖尿病患者の自己管理教育･指導について計画を立案する。 （机上訓練）	講義	國分
2.5	個人で立案した自己管理教育･指導についての計画・グループワークを行い、メンバーで共有し、模造紙へまとめ発表する。(45 分)	講義 GW	國分

テキスト	適宣資料を配布
参考文献 参考書等	適宣資料を配布 適宣関係図書紹介
評価方法	筆記試験（古関 50 点、田島･野地･國分 50 点　合計 100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	【古関】「教育論」について 8 回の講義を集中して受講すること。予習・復習よりも毎時間の中で講義内容を理解し、身につけるように心がけること。毎時間講義のまとめを提出すること。 【田島】臨床での指導がイメージできるように講義します。 【野地】講義中、学生同士のディスカッションを奨励します。 【國分】事前に糖尿病の病態生理を復習しておく。エリクソンの発達段階(青年期～成熟期)について復習しておく。一方的な指導ではなく、自己効力感を高め、行動変容ができる指導とは何かを考え、グループワークを進めてほしい。

基礎分野	科　目	人間関係論	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期・後期
担当講師	牧田 実　　大学教授（人間発達文化学類）・学術修士			
授業目標	人間関係についての基礎理論と現代社会の人間関係の特質について学び、看護の臨床場面における人間関係への理解を深める			

回	内　　容	方法
1	人間関係の基礎理論(1)：社会的存在としての人間	講義
2	人間関係の基礎理論(2)：社会的行為	講義
3	人間関係の基礎理論(3)：役割と集団	講義
4	人間関係の基礎理論(4)：コミュニケーション	講義
5	人間関係の基礎理論(5)：相互行為の秩序	講義
6	現代社会と人間関係（1)：社会的性格と他人指向	講義
7	現代社会と人間関係（2)：現代社会と若者	講義
8	現代社会と人間関係（3)：情報社会と若者	講義
9	現代社会と人間関係（4)：家族と人間関係	講義
10	現代社会と人間関係（5)：現代日本の家族関係	講義
11	看護と人間関係（1)：病院の人間関係	講義
12	看護と人間関係（2)：死の認識と心理過程	講義
13	看護と人間関係（3)：末期患者と人間関係	講義
14	看護と人間関係（4)：人間関係のプロセスとしての看護	講義
15	まとめとふりかえり	講義

テキスト	系統看護学講座 人間関係論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	人を育む人間関係論-援助専門職者として、個人として-（医学書院）
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	「人間関係」は机上ではなく、現実の社会にあり、みなさんの日常とともにあります。授業で学んだ視点で自分の人間関係を捉え返してみることが大切です。

基礎分野	科　目	倫理学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期･後期
担当講師	菅原 宏道　　大学学術研究員（文学研究科）			
授業目標	(1)倫理学がどのような学的な営みであるかを理解できるようになる。(2)生命・医療倫理の諸問題に、倫理学のさまざまな考え方や用語を適用して理解し、知識として定着させることができるようになる。(3)生命・医療倫理の諸問題について、自分自身の主張とその理由を読み手に伝えることができるようになる。			

回	内　　容	方法
1	イントロダクション：哲学と倫理学、事実と価値、ヒトと人の違い考える。	講義
2	自己理解：自分自身をできる限り客観的に分析する。	講義
3	功利主義と義務論、医療倫理の四原則、ケーススタディ	講義
4	他者理解：さまざまなナラティブを持つ人々の理解と尊重を考える。	講義
5	生殖補助医療と優生思想：生殖の意義と子どもの福祉を考える。	講義
6	人工妊娠中絶と胎児の地位：親の意向、社会的損失、胎児の地位を考える。	講義
7	エンハンスメントと医療化：健康を超える願望と人間の変容を考える。	講義
8	不老不死（永遠の命）：人間の願望と自然のあり方を考える。	講義
9	患者の幸せと医療指針の転換：人生の量（長さ）と質（クオリティ）を考える。	講義
10	インフォームド・コンセントと病の告知：患者の決定と患者への配慮を考える。	講義
11	人生の最終段階（終末期）：映画を用いたケーススタディ	講義
12	安楽死：患者の尊厳と苦痛の回避を考える。	講義
13	生体臓器移植と家族のリスク：患者の健康回復と家族のリスクを考える。	講義
14	脳死と臓器移植：ヒトとしての脳死者と人としての脳死者について考える。	講義
15	看護職の倫理：看護倫理の五原則、看護職の倫理綱領、看護倫理の概念	講義

テキスト	なし
参考文献 参考書等	『命は誰のものか［増補改訂版］』香川知晶（著）（ディスカヴァー携書） 『入門・医療倫理Ⅰ［改訂版］』赤林朗（編）（勁草書房）
評価方法	ワークシート、試験（100 点満点で評価） 評価基準は「授業目標」の(1)～(3)の達成度とします。
履修上の アドバイス	医療の発展や生命科学の進展などによって生じている、人間の生命や医療に関する倫理的な諸問題を個人的な思いや感情からだけではなく、社会に共存・共生する人々の問題としてとらえる公共的な視点からも考察して欲しく思います。

基礎分野	科　目	異文化コミュニケーション	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名				
時期/時間	3 年次前期/15 時間		3 年次前期/15 時間	
担当講師 実務経験	スコット 寿美子　理学療法士 総合病院(リハビリテーション科)等 19 年 中学校教諭 1 種免許･高等学校教諭 1 種免許		荒 哲　大学 非常勤講師	
授業目標	日本語と英語の発想や文化の違いについて学ぶ。また、医療･看護の現場で英語をつかったコミュニケーションをするための必須表現を学び、患者の症状や病歴を尋ねたり、患者のニーズに対応するロールプレイングを通して、実践的な英語力を学ぶ。		外国語（英語）の基礎を習得し、簡単な英文の読解力を身につけ、異文化理解のための基礎力を養う。	

回	内　容	方法	講師
1	患者観察	講義･演習	佐藤
2	スピーキング　外来での会話・既往歴聴取	講義･演習	佐藤
3	スピーキング　入院時の会話	講義･演習	佐藤
4	スピーキング　緊急時の会話	講義･演習	佐藤
5	リスニング　外来での会話	講義･演習	佐藤
6	リスニング　入院時の会話（病歴聴取）	講義･演習	佐藤
7	リスニング　緊急時の会話	講義･演習	佐藤
7.5	まとめ（45 分）	講義･演習	佐藤
1	もう一度基本から始めよう。簡単な英作文	講義	荒
2	Be 動詞について	講義	荒
3	一般動詞（現在と過去）	講義	荒
4	進行形	講義	荒
5	未来形	講義	荒
6	助動詞	講義	荒
7	代名詞	講義	荒
7.5	英語映画（45 分）	講義	荒

テキスト	新 20 ヘルスケア･ダイアログズ「ホスピタルイングリッシュ VitalSigns」（南雲堂） 基礎からの英語入門（南雲堂）
参考文献	英和辞書
評価方法	筆記試験･実技試験（佐藤 50 点、荒 50 点　合計 100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	【佐藤】英語に関心を持ち、コミュニケーションの中で楽しみながら英会話に触れ、医療現場で活用できるようにしてほしい。 【荒】中学校程度の英語学習を振り返ります。

基礎分野	科　目	ボランティア論	単位数 時間	1単位 15時間
単元名				
時期/時間	1年次前期・後期/15時間			
担当講師	日下 輝美　大学教授 木村 信綱　大学教授			
授業目標	ボランティアは、誰もが暮らしやすい豊かな社会をめざして、さまざまな人や団体とつながり、ネットワークをつくりながら、社会の課題解決に自発的に取り組むことである。地域社会の現状を知り、福祉、教育、文化、芸術、スポーツ、環境、国際協力、まちづくり、人権など、幅広い分野で「市民」「行政」と連携・協議して課題解決する力を習得することも目標とする。			
回	内　容		方法	講師
1	オリエンテーション　　ボランティア活動とは何か		講義	日下
2	あなたと社会とボランティア① 高齢者、児童、障害、教育の諸問題と各種ボランティア活動の取り組み		講義	日下
3	あなたと社会とボランティア② 文化、芸術、スポーツ、環境、国際協力の諸問題と各種ボランティア活動の取り組み		講義	日下
4	あなたと社会とボランティア① 人権、災害の諸問題と各種ボランティア活動の取り組み ボランティア活動にあたっての注意点 前半部分のまとめ		講義･演習	日下
5	地域課題に取り組む①（課題抽出の手法）		演習	木村
6	地域課題に取り組む②（アイデア発想法）		演習	木村
7	地域課題に取り組む③（具体的な施策の検討）		演習	木村
7.5	地域課題解決の施策提案		演習	木村
テキスト	特に教科書は使用せず、担当教員がその都度作成し、授業内容に即したプリントを配布する			
参考文献 参考資料	基礎から学ぶ ボランティアの理論と実際（中央法規出版）			
評価方法	1～4回目　レポート/筆記試験（50点） 5～7.5回目　小レポート/提案（50点）　　合計100点満点で評価			
履修上の アドバイス	後半は実際の地域課題を題材にした実践的な演習を展開します。			

<table>
<tr><td>基礎分野</td><td>科　目</td><td colspan="3">レクリエーション論</td><td>単位数
時間</td><td colspan="3">1 単位 30 時間</td></tr>
<tr><td>単元名</td><td colspan="7"></td></tr>
<tr><td>時期/時間</td><td colspan="3">3 年次前期/20 時間</td><td colspan="4">3 年次前期･後期/10 時間</td></tr>
<tr><td>担当講師
実務経験</td><td colspan="3">清野 通仁　アカデミーコーチ
高等学校教諭一種教員免許
（保健体育）</td><td colspan="4">鈴木 智子　大学准教授
髙橋 雄二　大学講師</td></tr>
<tr><td>授業目標</td><td colspan="3">心と体を一体として捉え、運動や健康の安全についての理解と運動の合理的な実践を通して
①運動技能を高め運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする
②健康の保持増進のための実践力の育成
③体力の向上を図り、明るく楽しい豊かな生活を営む態度を育てる</td><td colspan="4">レクリエーション活動がもたらす遊びの楽しさやコミュニケーションと人間関係について演習を通して理解する。

高齢者や障碍者がレクリエーションを通して、楽しみながら機能の維持およびリハビリテーションを行うことの意義を学ぶと共に､対象者の特性に配慮した実践的なレクリエーション技術を修得する。</td></tr>
<tr><td>回</td><td colspan="2">内　容</td><td>方法</td><td colspan="2">内　容</td><td>方法</td><td>講師</td></tr>
<tr><td>1</td><td colspan="2">目標設定の方法（学内）</td><td>講義</td><td colspan="2">幼児期の遊びの意義
レクリエーション活動
（手遊び・歌遊び）</td><td>講義
演習</td><td>鈴木</td></tr>
<tr><td>2</td><td colspan="2">アクションプランの設定（学内）</td><td>講義</td><td colspan="2">レクリエーション活動
（リズムに合わせた身体表現）</td><td>講義
演習</td><td>鈴木</td></tr>
<tr><td>3</td><td colspan="2" rowspan="2">体つくり運動 フットサル</td><td rowspan="2">演習</td><td colspan="2">レクリエーション活動
（素材を生かした表現遊び）</td><td>講義
演習</td><td>鈴木</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="2">高齢者レクリエーションを行う意義および実践</td><td>講義
演習</td><td>髙橋</td></tr>
<tr><td>5</td><td colspan="2" rowspan="2">体つくり運動 バレーボール</td><td rowspan="2">演習</td><td colspan="2">障害の特性に配慮したレクリエーションの実践</td><td>講義</td><td>髙橋</td></tr>
<tr><td>6</td><td colspan="4" rowspan="5"></td></tr>
<tr><td>7</td><td colspan="2" rowspan="2">体つくり運動 バスケットボール</td><td rowspan="2">演習</td></tr>
<tr><td>8</td></tr>
<tr><td>9</td><td colspan="2" rowspan="2">体つくり運動 食育（調理実習）</td><td rowspan="2">講義
演習</td></tr>
<tr><td>10</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">必要に応じて資料を配布する</td></tr>
<tr><td>参考文献
参考書等</td><td colspan="7">新版 遊びの指導（乳･幼児編）（同文書院）</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="7">清野 60 点、鈴木 20 点、髙橋 20 点　合計 100 点満点で評価</td></tr>
<tr><td>履修上の
アドバイス</td><td colspan="7">【清野】楽しく体つくりをしていきましょう。

【鈴木】講義と演習を組み合わせて授業を展開します。動きやすい服装で出席してください。3 回目の授業では製作を行いますので、ハサミ、セロハンテープ、クレヨン等を持参してください。詳細については初回の授業時にお伝えします。

【髙橋】動きやすい服装で参加してください。</td></tr>
</table>

基礎分野	科　目	コミュニケーション論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	安田 いつ美　大学講師			
授業目標	日常何気なく使っている「言葉」について認識を深める。「話す力」「聞く力」を体系的に理解することで、社会生活で役立つ「会話力」「伝える力」を身に付ける。好感が持てる話し方、相手に伝わる話し方を習得し、自己表現としての「話す力」を高める。			

回	内　　容	方法
1	オリエンテーション 苦手意識を克服するために必要なこと コミュニケーションの基礎　印象・表情・目線	講義 グループワーク
2	話し方の基礎①　正確に伝える	グループワーク
3	話し方の基礎②　話しをまとめるコツ ＳＤＳ法・ＰＲＥＰ法	講義 グループワーク
4	話し方の基礎③　人を惹きつける話し方 興味を持ってもらうために心掛けること	グループワーク 発表
5	会話①　「話す力」を高める 会話を続けるコツ・好感の持てる会話	講義 グループワーク
6	会話②　「聞く力」を高める ポジティブリスニング	講義 グループワーク
7	会話③　「伝える力」を高める 心に響く伝え方	全体討議
7.5	まとめ　コミュニケーション力が人間関係を豊かにする（45 分）	全体討議

テキスト	必要に応じてプリントを配布
参考文献 参考書等	日本語会話表現法とプレゼンテーション（学文社） プレゼンテーション概論（樹村房） 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
評価方法	授業内の課題・発表４０点、筆記試験６０点　計１００点で総合的に評価
履修上の アドバイス	人と話しをすること、人前で話すことをテーマにした授業です。 グループワークや実践的な演習で、苦手意識のある人でも負担なく取り組めるように展開します。楽しむ気持ちで参加してください。

基礎分野	科　目	プレゼンテーション論	単位数 時間	1 単位 15 時間
単元名				
時期/時間	1 年次前期/15 時間			
担当講師	木村 信綱　大学教授			
授業目標	相手の立場にたった論理の組み立て方法を身に付け、筋のとおったプレゼンテーションを目指します。また、ICT を活用したプレゼン技法を身に付けます。			

回	内　容	方法
1	オリエンテーション（授業の進め方など） 良いプレゼンとは何か	講義
2	論理の組み立て方	講義／演習
3	プレゼンテーションの技法① スライド構成とレイアウト	演習
4	プレゼンテーションの技法② 根拠となるデータ活用	演習
5	プレゼン実践①　出題とプレゼン準備	演習
6	プレゼン実践②	演習
7	プレゼン実践③	演習
7.5	授業のまとめ（45 分）	講義

テキスト	テキストは使用しない（毎回資料を配布する）
参考文献 参考資料	特になし
評価方法	実技試験(プレゼンテーション 70 点、レポート 30 点)　合計 100 点満点で評価
履修上の アドバイス	テーマに沿ったプレゼンデータ作成と実践を行います。 プレゼン実践は、数名のチーム構成を想定しています。

基礎分野	科　目	プロジェクト学習	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師 実務経験	大戸 和子　看護師 専任教員 28 年、総合病院(脳神経外科、整形外科、救急外来など)11 年			
授業目標	日常生活の中での問題や課題を見つけ、解決に向けて計画的に取り組みゴールを目指す。 ①問題・課題の発見 ②なぜ問題・課題があるのか、どうすれば解決するのか効果的な方法を考える ③実際に解決策を実施してみる ④実施した解決策は適切であったか、改善点はあるのか検証する ⑤問題解決にあたっては、期限を設定し逆算して行動スケジュールを立てる ⑥個人及びグループで問題解決活動を行い、実践的なスキルを習得する ⑦ICT を活用、効果的な発表のスキルを学ぶ			

回	内　　容	方法
1	プロジェクト学習の意義 情報リサーチ(問題を絞り込むために情報を集める)	講義 ＧＷ
2	情報リサーチ(問題を絞り込むために情報を集める)	講義 ＧＷ
3	課題分析　グループ討議　(ロジックツリーを作ってみる　先行事例の研究)	講義 ＧＷ
4	課題を見出す 解決策・企画	講義 ＧＷ
5	提案・実行	講義 ＧＷ
6	実行・評価・修正	講義 ＧＷ
7	まとめ・表現　ネットワークを活用し発表する	発表
7.5	まとめ・表現　ネットワーク活用し発表する（45 分）	発表

テキスト	講師資料
参考文献 参考書等	情報活用型プロジェクト学習　稲垣忠 プロジェクト学習の始め方　常磐拓司
評価方法	実践での取り組み　レポート　成果発表　（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	問題解決するために、情報を獲得し、分析・判断して状況に即して、具体的に「こうしたらよい」という考えを頑張って生み出しゴールを目指しましょう

専門基礎分野	科　目	解剖生理学Ⅰ	単位数 時間	2単位 60時間
	単元名		時期	1年次 前期
担当講師	本多 たかし　　医師・医学博士・大学名誉教授 大学附属病院において医師として勤務			
授業目標	看護に必要な人体の構造と機能を理解する			

回	内　　容	方法
1	解剖生理学概論、水の性質	講義
2	生命の定義	講義
3	体液	講義
4	血液	講義
5	骨の生理学的役割	講義
6	骨組織、骨細胞、骨の連結	講義
7	骨格-頭部・体幹	講義
8	骨格-胸郭	講義
9	骨格-四肢	講義
10	筋肉総論、骨格筋細胞、骨格筋組織	講義
11	全身の筋Ⅰ、頭・頸部・体幹	講義
12	全身の筋Ⅱ、四肢	講義
13	循環と呼吸総論	講義
14	心筋細胞と心筋組織、心臓の位置	講義
15	左室圧・容量曲線、前負荷、後負荷、心電図	講義
16	血管の種類と構造	講義
17	全身の動脈	講義
18	全身の静脈	講義
19	呼吸器の構造	講義
20	呼吸の生理学	講義
21	消化器系概論	講義
22	咀嚼、嚥下、初期消化	講義
23	胃、小腸、大腸、排泄	講義
24	肝臓、肝機能	講義
25	腎臓の位置と構造	講義
26	糸球体機能	講義
27	腎機能	講義
28	排尿	講義
29	神経細胞　神経組織	講義
30	解剖見学実習	講義・実習

テキスト	テキストは指定せず内容に合わせた講義資料および演習問題を配布する
参考文献 参考書等	系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
評価方法	筆記試験（中間試験100点、本試験100点の平均100点満点で評価）
履修上の アドバイス	高校までに履修した物理学および化学の知識を確実なものとして講義に臨むこと。

専門基礎分野	科　目	解剖生理学Ⅱ	単位数 時間	1単位 30時間
	単元名		時期	1年次 前期･後期
担当講師	本多 たかし　　医師・医学博士・大学名誉教授 大学附属病院において医師として勤務			
授業目標	看護に必要な、人体の構造と機能を理解する			

回	内　　容	方法
1	中枢神経系（大脳半球）	講義
2	神経伝導路、末梢神経系	講義
3	脳神経、脊髄神経	講義
4	恒常性、自律神経系	講義
5	内分泌系～視床下部-下垂体-副腎	講義
6	感覚	講義
7	視覚、聴・平衡感覚	講義
8	生殖概論	講義
9	男性生殖器	講義
10	女性生殖器、卵巣、卵管	講義
11	子宮、膣　乳腺	講義
12	胎盤、胎児循環	講義
13	発生学の基礎（1）	講義
14	発生学の基礎（2）	講義
15	解剖見学実習	講義・実習

テキスト	テキストは指定せず内容に合わせた講義資料および演習問題を配布する
参考文献 参考書等	系統看護学講座 解剖生理学（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
評価方法	筆記試験（100点満点で評価）
履修上の アドバイス	高校までに履修した物理学および化学の知識を確実なものとして講義に臨むこと

専門基礎分野	科　目	生化学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	関亦 正幸　　大学准教授（機能生物化学）・医学博士			
授業目標	生体を構成する分子・物質の構造と機能を理解する 生体内の物質代謝・エネルギー代謝を理解する 生体物質および細胞小器官の構造と働きから、人の生理と疾患の病理を理解する			

回	内　　容	方法
1	イントロダクション、生体の成り立ち	講義
2	生体の構成分子、細胞の構成	講義
3	タンパク質とは、アミノ酸の種類と性質	講義
4	アミノ酸の結合、イオン化、タンパク質の高次構造と変性	講義
5	酵素とは、酵素の特徴、酵素反応速度論	講義
6	血清、酵素の臨床応用、アイソザイム	講義
7	糖とは、糖の種類、糖の消化、糖代謝	講義
8	解糖系、クエン酸回路、糖尿病	講義
9	脂質とは、脂肪酸、中性脂肪、コレステロール	講義
10	脂肪酸代謝、コレステロールの合成、リポタンパク質、高脂血症	講義
11	アミノ酸の代謝、アミン、尿素回路、アミノ酸先天代謝異常	講義
12	核酸、遺伝のしくみ、遺伝子異常	講義
13	ホルモン、内分泌疾患	講義
14	ビタミン、ビタミン欠乏症	講義
15	体液、血液、尿、恒常性の維持	講義

テキスト	わかりやすい生化学-疾病と代謝・栄養の理解のために（ヌーヴェルヒロカワ）
参考文献 参考書等	系統看護学講座 生化学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 看護学生のための自己学習 2 生化学・栄養学 3 版（金芳堂）
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上のアドバイス	授業中の疑問点はその場で解決する。 授業内容はメモし、頻出する用語・物質名および化学構造式などは手書きして覚える。 「整理ノート」を利用して要点をまとめ、「確認問題」を繰り返し解く。

専門基礎分野	科　目	微生物学	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	宮﨑 希　　大学助教（微生物学）・医学博士			
授業目標	病原微生物（ウイルス、細菌、真菌、原虫）の性状・特徴とそれらが引き起こす種々の感染症に関する基本的な知識を学習する			

回	内　　容	方法
1	微生物学総論	講義
2	感染と感染症	講義
3	滅菌と消毒（1）	講義
4	滅菌と消毒（2）、球菌と感染症	講義
5	総論小テスト、桿菌と感染症（1）	講義
6	桿菌と感染症（2）	講義
7	その他の細菌と感染症	講義
8	DNA ウイルスと感染症	講義
9	細菌と感染症小テスト、RNA ウイルスと感染症（1）	講義
10	RNA ウイルスと感染症（2）	講義
11	逆転写酵素をもつウイルスと感染症	講義
12	真菌と原虫感染症	講義
13	ウイルスと感染症小テスト	講義
14	まとめ（免疫）（感染症）	講義
15	微生物学実習	講義

テキスト	系統看護学講座 微生物学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習復習をして学びを深めてください。

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅠ	単位数 時間	1単位 15時間
	単元名	病理学総論	時期	1年次 前期･後期
担当講師	本多 たかし　　医師・医学博士・大学名誉教授 大学附属病院において医師として勤務			
授業目標	看護に必要な疾病を理解するうえで必要な、病理学的な知識を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	病理学とはどのような学問か	講義
2	病因論、病態論（退行性変化）	講義
3	進行性変化	講義
4	循環障害	講義
5	代謝障害	講義
6	炎症	講義
7	腫瘍	講義
7.5	奇形（45分）	講義

テキスト	テキストは指定せず内容に合わせた講義資料および演習問題を配布する
参考文献 参考書等	系統看護学講座 病理学（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
評価方法	筆記試験（100点満点で評価）
履修上の アドバイス	解剖生理学の知識を十分に持ったうえで講義に臨むこと

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅡ	単位数 時間	1 単位 30 時間

単元名	呼吸器系		循環器系	
時期/時間	1 年次前期/15 時間		1 年次前期・後期/15 時間	
担当講師 実務経験	佐藤 俊　医師 総合病院(呼吸器科)等 18 年 診療所(呼吸器内科)4 年		猪狩 次雄　医師･大学特任教授 総合病院(外科)等 48 年	
授業目標	呼吸器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ		循環器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ	
回	内　容	方法	内　容	方法
1	呼吸器の構造と機能	講義	循環器の構造と機能	講義
2	症状とその病態生理	講義	症状とその病態生理	講義
3	検査と治療･処置①(検査)	講義	症状とその病態生理	講義
4	検査と治療･処置②(治療･処置)	講義	検査と治療	講義
5	疾患の理解①(感染症疾患)	講義	検査と治療	講義
6	疾患の理解②(気道系疾患)	講義	疾患の理解 (虚血性心疾患･心不全)	講義
7	疾患の理解③ (間接性肺疾患･肺腫瘍)	講義	疾患の理解 (血圧異常･不整脈･弁膜症)	講義
7.5	疾患の理解④ (睡眠時無呼吸症候群 他)(45 分)	講義	疾患の理解 (先天性心疾患･動脈･静脈ﾘﾝﾊﾟ) (45 分)	講義
テキスト	系統看護学講座 呼吸器（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 循環器（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ			
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）			
評価方法	筆記試験（呼吸器 50 点、循環器 50 点の合計 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	【呼吸器系】 テキストを読んで予習・復習をする。 【循環器系】 テキストを読んで予習・復習をする。 循環器の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。			

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅢ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	消化器系	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	茂木 積雄　医師 総合病院(消化器科・内科)等 31 年			
授業目標	消化器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	消化器の構造と機能①	講義
2	消化器の構造と機能②	講義
3	症状とその病態生理	講義
4	診察と診断の流れ、検査（Ⅰ）血液検査他	講義
5	検査（Ⅱ）内視鏡検査他、治療	講義
6	疾患の理解（Ⅰ）食道・胃・大腸の疾患	講義
7	疾患の理解（Ⅱ）食道・胃・大腸の疾患	講義
7.5	疾患の理解（Ⅲ）肝臓・膵臓の疾患	講義

テキスト	系統看護学講座 消化器（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）
評価方法	筆記試験（100 点満点）
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 消化器の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅣ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	運動器系	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	山家 孝　医師 総合病院(整形外科)等 13 年、診療所(整形外科)28 年			
授業目標	運動器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	運動器の構造と機能	講義
2	症状とその病態生理	講義
3	判断・検査と治療・処置	講義
4	疾患の理解（骨折）	講義
5	疾患の理解（脱臼、捻挫、打撲、神経の損傷、筋・腱・靭帯の損傷）	講義
6	疾患の理解（先天性疾患、骨・関節の炎症性疾患、骨腫瘍および軟部腫瘍）	講義
7	疾患の理解（代謝性疾患、筋および腱の疾患、神経の疾患）	講義
7.5	疾患の理解、まとめ（45 分）	講義

テキスト	系統看護学講座 運動器（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）
評価方法	筆記試験（100 点満点）
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 運動器の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅤ	単位数 時間	1単位 15時間
単元名	脳神経系			
時期/時間	1年次後期/9時間		1年次後期/6時間	
担当講師 実務経験	市川 優寛　医師 総合病院(脳神経外科学講座)等23年		中村 耕一郎　医師 総合病院(神経内科)等22年	
授業目標	脳神経の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ			

回	内　容	方法	講師
1	神経症状①	講義	市川
2	神経症状②	講義	市川
3	神経検査	講義	市川
4	脳疾患①	講義	市川
4.5	脳疾患②（45分）	講義	市川
1	神経疾患各論（脊髄、末梢神経、筋疾患）	講義	中村
2	神経疾患各論（筋疾患、脱髄疾患、神経変性疾患）	講義	中村
3	神経疾患各論（てんかん、認知症、中枢神経感染症）	講義	中村

テキスト	系統看護学講座 脳・神経(医学書院)※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術(南江堂)
評価方法	筆記試験（市川60点、中村40点　合計100点満点で評価する）
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 脳神経の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅥ		単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	血液･造血器系	内分泌･代謝系		ｱﾚﾙｷﾞｰ･膠原病系	
時期/時間	2 年次前期/10 時間	2 年次前期/14 時間		2 年次前期/6 時間	
担当講師 実務経験	木村 秀夫　医師 総合病院(血液内科)等 48 年	茂木 積雄　医師 総合病院(内科･消化器科)等 31 年		海瀬 俊治　医師 総合病院(内科ｱﾚﾙｷﾞｰ科)等 43 年	
講義目標	血液･造血器機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ	内分泌･代謝機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ		生体防御希望が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ	
回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法
1	血球の産生 正常値増多と減少症	講義	総論 1(内分泌器官の構造と機能)	講義	アレルギー､アレルギー反応､アレルギー疾患	講義
2	輸血と副作用 貧血症 多血症	講義	総論 2(内分泌を形成する 11 のホルモン系、代謝の概要と機能)	講義	膠原病､自己免疫	講義
3	白血病の急性期～慢性 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫	講義	検査、代謝疾患の検査 他	講義	膠原病各論 感染症	講義
4	造血幹細胞輸注 移植 スライド供覧 血液像、骨髄像	講義	疾患の理解(内分泌疾患 ①視床下部･下垂体系/甲状腺疾患)	講義		
5	血小板減少症 出血性疾患 DIC　エイズ	講義	疾患の理解(内分泌疾患 ②甲状腺･副甲状腺･副腎疾患 他)	講義		
6			疾患の理解(代謝疾患① 糖尿病)	講義		
7			疾患の理解(代謝疾患② 脂質異常症･メタボリック症候群･痛風)	講義		
テキスト	系統看護学講座 血液･造血器 (医学書院) ※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 内分泌･代謝 (医学書院) ※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) ※e ﾃｷｽﾄ					
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術(南江堂)					
評価方法	筆記試験 (血液･造血器系 30 点・内分泌･代謝系 50 点・ｱﾚﾙｷﾞｰ･膠原病 20 点の合計 100 点満点で評価する)					
履修上のアドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 「血液・造血器」「内分泌・代謝」「アレルギー・膠原病」の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。					

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅦ	単位数 時間	1 単位 30 時間

単元名	腎・泌尿器	皮　膚	女性生殖器
講義目標	腎・泌尿器の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ	皮膚の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ	性・生殖器機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察・判断する上での基礎的知識を学ぶ
時期/時間	2 年次前期/15 時間	2 年次前期･後期/5 時間	2 年次後期/10 時間
担当講師 実務経験	熊谷 研　医師 総合病院(泌尿器科)等 15 年 診療所(腎泌尿器)8 年	佐藤 守弘　医師 総合病院(皮膚科)等 18 年、 診療所(皮膚科)19 年	矢澤 美穂子　医師 総合病院(産婦人科)等 7 年 診療所(産婦人科)28 年 野口 まゆみ　医師 総合病院(婦人科)等 13 年 診療所(婦人科)28 年

回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法	講師
1	構造と機能	講義	皮膚の構造と働き 発疹　検査	講義	女性生殖器解剖 性周期	講義	矢澤
2	症状とその病態生理	講義	湿疹　皮膚炎群 蕁麻疹 物理化学的外傷	講義	性分化、妊娠 月経周期	講義	矢澤
3	検査	講義	皮膚腫瘍　感染症 色素異常症	講義	外陰・子宮の疾患	講義	野口
4	治療、処置	講義			子宮、卵巣 乳腺疾患	講義	野口
5	尿路腫瘍、結石、腫瘍	講義			月経異常、性感染症	講義	野口
6	腎障害①、先天異常 性機能障害 生殖器疾患	講義					
7	腎障害②	講義					
7.5	まとめ	講義					

テキスト	系統看護学講座 腎・泌尿器（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 皮膚（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 女性生殖器（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術(南江堂)
評価方法	筆記試験（腎・泌尿器 40 点･皮膚 20 点･女性生殖器(矢澤)20 点･女性生殖器(野口)20 点の合計 100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストを読んで予習・復習をする。 「腎・泌尿器」「皮膚」「性・生殖器」の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。

専門基礎分野	科　目	病気とからだⅧ		単位数 時間	1 単位 15 時間	
単元名	歯		眼		耳鼻咽喉	
時期/時間	2 年次前期 5 時間		2 年次前期 5 時間		2 年次前期 5 時間	
担当講師 実務経験	松本 朝徳　歯科医師 総合病院(歯科)1 年、 診療所(歯科)6 年		竹田 洋介　医師 総合病院(眼科)13 年、 診療所(眼科)27 年		鈴木 知子　医師 総合病院(耳鼻科)等 38 年	
授業目標	歯科の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ		眼の構造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ		耳鼻咽喉の造や機能が障害された状態を理解し、病態の進行状態を観察･判断する上での基礎的知識を学ぶ	
回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法
1	歯の構造と機能 歯および歯肉組織	講義	眼球解剖、疾患について	講義	耳鼻咽喉解剖疾患について（耳）	講義
2	症状とその病態生理 検査と治療･処置	講義	前眼部･後眼部疾患について	講義	疾患について（鼻･口腔･咽喉頭･気管支炎）	講義
2.5	疾患の理解 患者の看護 口腔ケア	講義	緑内障･白内障について	講義	検査・治療	講義
テキスト	系統看護学講座 歯・口腔（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 眼（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 耳鼻咽喉（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ					
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）					
評価方法	筆記試験（歯 30 点、眼 30 点、耳鼻咽喉 40 点　合計 100 点満点で評価）					
履修上のアドバイス	【歯】テキストを読んで予習・復習をする。 【眼】テキストを読んで予習・復習をする。眼の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。 【耳鼻咽喉】テキストを読んで予習・復習をする。耳鼻咽喉の解剖生理学の学習も並行して行いましょう。					

専門基礎分野	科　目	治療論Ⅰ		単位数 時間	1単位 30時間
単元名	栄養と生活			リハビリテーション	
時期/時間	1年次前期・後期/15時間			1年次前期・後期/15時間	
担当講師 実務経験	関場 治美　管理栄養士 病院(栄養課)･クリニック等26年			佐藤 飛鳥　理学療法士 病院(リハビリテーション課)18年	
授業目標	栄養素の消化･旧称･代謝および生理作用、ライフステージ別の適切な栄養管理、病態の理解と栄養状態の的確な評価に基づく栄養管理について学ぶ。また日本人の栄養状態は生活環境やライフスタイルの変遷によって新たな問題が生じている現状を理解する。			障害への適応と社会復帰への看護に必要なリハビリテーション看護の習得	
回	内　容		方法	内　容	方法
1	1.健康と栄養 2.日常生活と栄養		講義	1.リハビリテーション概論 ･ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの定義と制度 ･ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの対象と制度 ･疾病･障害･生活機能の分類 ･ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの種類 ･ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの専門職 ･ﾁｰﾑｱﾌﾟﾛｰﾁ	講義
2	3.食物と栄養		講義	2.リハビリテーション看護概論 ･ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護の定義と専門化 ･ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護の対象 ･ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護の方法	講義
3	4.ライフステージと健康教育		講義		
4	5-1.臨床栄養(病院食の概要､呼吸器､脳、経系、消化器系疾患、肝臓病)		講義	3.各疾患のリハビリテーション看護 3-1 運動器系、3-2 中枢神経系 3-3 呼吸･循環器系、3-4 感覚器系 ･各疾患のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ ･各疾患のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護の方法	講義
5	5-2.臨床栄養（循環器系疾患、糖尿病、腎臓病）		講義		
6	調理実習		実習		
6.5	5-3.栄養補給法､チーム医療(45分)		講義	4.活動･休息援助技術 ･基本的活動の援助	講義
7.5	5-4.臨床栄養まとめ、危機管理		講義		
テキスト	系統看護学講座 栄養食事療法（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ　　新食品成分表 系統看護学講座 リハビリテーション看護（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ				
参考文献 参考書等	適宣資料の配布				
評価方法	筆記試験（栄養と生活50点、リハビリテーション50点　合計100点満点で評価）				
履修上の アドバイス	【栄養と生活】自身の食生活を振り返り栄養バランスを考えた食に対して興味関心を深める。 【リハビリテーション】授業補助項目 1.アンケート記載　授業後にわからなかったことや難しかったことをアンケートで把握し、次回の授業で復習として解説する。 2.国家試験過去問演習　その都度の授業内容(ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護)に関連した国家試験の過去問を自己研鑽用に配布する。				

専門基礎分野	科　目	治療論Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間

単元名	放射線治療	薬　理
時期/時間	2 年次前期/6 時間	2 年次前期・後期/24 時間
担当講師 実務経験	星野 俊明　医師 総合病院(放射線科)21 年 病院(内科)22 年	山口 聡　薬学博士・薬剤師 病院(薬剤科)・薬局など 10 年
授業目標	放射線の特徴と治療の基礎知識を理解する。	①薬物療法における看護師の役割について理解する。 ②生体に対する薬物の作用機序、薬物動態などを理解する。 ③代表的な薬物について、種類や特徴を理解する。中でもハイリスク薬については、取り扱い方法を含めて深く理解する。

回	内　容	方法	内　容	方法
1	放射線治療の医療への応用、癌と放射線治療	講義	薬物における病気の治療/薬理学とは何か/看護業務に必要な薬の知識	講義
2	放射線治療と看護 放射線診断と看護	講義	薬力学/薬物動態学･薬物相互作用/薬効の個人差/薬物使用の有益性と危険性･薬と法律	講義
3	放射線診断と看護 核医学と看護	講義	感染症治療に関する基礎事項/抗菌薬　抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗寄生虫薬　感染症の治療における問題点	講義
4			がん治療に関する基礎事項/抗がん薬各論/分子標的薬	講義
5			免疫系の基礎知識/免疫抑制薬/免疫増強薬・予防接種薬	講義
6			抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬/炎症と抗炎症薬/関節リウマチ治療薬　痛風・高尿酸血症治療薬	講義
7			神経系による情報伝達/自律神経系作用薬/交感神経作用薬/副交感神経作用薬/筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義
8			中枢神経系のはたらきと薬物/全身麻酔薬/催眠薬・抗不安薬/抗精神病薬　抗うつ薬・気分安定薬/パーキンソン症候群治療薬/抗てんかん薬/麻薬性鎮痛薬/片頭痛治療薬	講義
9			降圧薬/狭心症治療薬/心不全治療薬　抗不整脈薬/利尿薬/脂質異常症治療薬　血液凝固系･線溶系に作用する薬物　血液に作用する薬物	講義
10			呼吸器系に作用する薬物/消化器系に作用する薬物/生殖器・泌尿器系に作用する薬物	講義
11			ホルモンとホルモン拮抗薬/治療としてのビタミン/皮膚に使用する薬物　眼科用薬/救急に用いられる薬物/急性中毒に用いられる薬物	講義
12			漢方医学の基礎知識/漢方薬各論/消毒薬/輸液製剤/輸血製剤	講義

テキスト	新体系看護学 別巻 放射線診療と看護（メヂカルフレンド社）※meebook 系統看護学講座 薬理学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	今日の治療薬（南江堂）
評価方法	筆記試験（放射線治療 30 点、薬理 70 点　合計 100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	【放射線治療】テキストを読んで予習･復習をする。 【薬理】薬物は医療の多くの場面に関わっています。そのため、薬物に関する知識を身につけることは看護業務を行う上で必要不可欠です。この講義を通じて、薬物に関する基礎的知識を習得しましょう。 【定期試験に向けて】講義後、十分に復習をして下さい。

専門基礎分野	科　目	治療と看護	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	原 恵理子　看護師 専任教員 7 年・総合病院(ICU､外科､消化器･循環器科など)22 年			
授業目標	①看護者から見る「からだ」をイメージできる ②病んだ時の「からだ」の変化と、それに伴う日常生活行動の変化を理解する ③生活行動の変化に対応できる知識と看護援助方法を理解する ④日常生活行動が生命維持やその人らしさに関わっていることを理解する ⑤解剖生理学の知識と疾病、看護をつなげて考えることができる			

回	内　　容	方法
1	日常生活行動と遂行するためのからだの機能―「食べる」/胃がん①	講義
2	胃がん患者の看護② - 「食べる」機能低下が及ぼす影響を考える	講義
3	胃がん患者の看護③ - 看護問題の根拠を考える	講義・GW
4	胃がん患者の看護④ - 看護援助とその根拠	講義・GW
5	日常生活行動と遂行するためのからだの機能―「動く」/脳梗塞・左片麻痺①	講義
6	脳梗塞患者の看護② - 日常生活における活動レベルの変化を捉える	講義
7	脳梗塞患者の看護③ - 活動レベルの変化から必要な援助を考える	講義・GW
8	脳梗塞患者の看護④ - 看護援助に必要な情報と根拠	講義・GW
9	脳梗塞患者の看護⑤ - 看護計画とその根拠・発表	講義・GW
10	日常生活行動と遂行するためのからだの機能―「息をする」/慢性閉塞性肺疾患①	講義
11	COPD 患者の看護② -「息をする」自覚症状・検査値・生活歴・対象の発言から病態と結びつける	講義
12	COPD 患者の看護③ - 病態とアセスメントの視点のつながり	講義
13	COPD 患者の看護④ - 病態と呼吸機能低下をつなげ、日常生活への影響を考える	講義・GW
14	COPD 患者の看護⑤ - セルフケアの援助	講義・GW
15	COPD 患者の看護⑥ - 「呼吸」アセスメント・看護援助　発表会　講義のまとめ	講義・GW

テキスト	・各回のテーマに沿ったテキストを使用する 例）1 回目胃がんの時は、系統看護学講座 消化器というように syllabus を参照する ・担当教員からの配布資料
参考文献	日常生活行動からみるヘルスアセスメント　大久保暢子編（日本看護協会出版会） 看護形態機能学　生活行動からみるからだ　菱沼典子著（日本看護協会出版会） 看護のための疾病論　ナースが視る病気　薄井坦子（講談社） ナースが視る人体　薄井坦子(講談社新版)　病気の地図帳 監修山口和克(講談社)
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上のアドバイス	看護学の視点（日常生活行動からみるからだ）から、体（解剖生理学)、病気（病気とからだ)、治療を捉えて、看護援助の根拠を考えアセスメントに活用できる知識を習得しましょう。

専門基礎分野	科　目	総合医療論		単位数 時間	2 単位 30 時間	
授業目標	医療や看護の原点・現代医療の実像・医療現場で問われている課題を理解し、新時代に求められる看護師像を描き自立した専門職としての役割を学ぶことができる					
時期/時間	1 年次前期･後期/15 時間			1 年次前期･後期/15 時間		
担当講師 実務経験	井上 仁　医師 総合病院(外科)等 48 年			鴫原りつ子　看護師 専任教員 17 年 総合病院(内科･外科･小児科など)22 年		
回	内　容		方法	内　容		方法
1	科学技術の進歩と現代医療(癌・移植・人工臓器・再生医療・画像診断)		講義	医療と看護の原点 ①援助と共感、パターナリズム		講義
2	現代医療の課題 ①薬の副作用・手術発症、倫理上のジレンマ、生命倫理、臨床倫理		講義	医療と看護の原点 ②命、健康		講義
3	現代医療の課題 ②環境問題、医療供給体制、医療情報の開示、インフォームドコンセント		講義	医療と看護の原点 ③病と癒し、医療看護マネージメント		講義
4	医療における合理的判断、患者の安全、管理と評価、最先端医療と情報化社会		講義	医療の歴史		講義
5	医療変革と保健・医療の担い手 総合医療の期待		講義	生活と健康 ①救急医療と蘇生、診療所と病院　薬と安全		講義
6	在宅医療、地域包括ケアシステム		講義	生活と健康 ②生活と環境衛生・保健・福祉行政、一次予防と健康増進		講義
7	保健・医療・福祉システムと地域住民の役割		講義	生活と健康 ③少子高齢化社会、ノーマライゼーション、インクルージョン		講義
7.5	保健・医療・福祉システムと地域住民の役割（45 分）		講義	生活と健康 ④心の健康と精神医療（45 分）		講義
テキスト	系統看護学講座 総合医療論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ					
参考文献 参考書等	国民衛生の動向					
評価方法	筆記試験（各講師 50 点　合計 100 点満点で評価）					
履修上の アドバイス	求められる看護師像についてじっくり考えるきっかけにしてほしい					

専門基礎分野	科　目	地域保健論	単位数 時間	2 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 後期
担当講師	遠藤 翔太　大学助教・医師・医学博士 春日 秀朗　大学助教・文学博士 増石 有佑　大学助教・薬剤師　国公立大学 9 年実務経験有			
授業目標	健康の考え方、疾病予防や健康増進のための保健予防活動について理解する。 また環境保健の意義と実際を理解する。			

回	内　　容	方法	講師
1	公衆衛生の総論、介入方法について	講義	遠藤
2	疫学の目的・手法について	講義	遠藤
3	人口統計と保健統計について	講義	遠藤
4	環境と健康について	講義	遠藤
5	予防と健康増進について	講義	遠藤
6	歯科保健・学校保健・産業保健・災害保健	講義	遠藤
7	地域保健・母子保健	講義	春日
8	地域保健・母子保健	講義	春日
9	学校保健・高齢者・難病など	講義	春日
10	学校保健・高齢者・難病など	講義	春日
11	グループワーク　テーマ決め、デモンストレーション	講義･GW	増石
12	グループワーク　発表スライド作成、レポート作成	GW	増石
13	グループワーク　発表スライド作成、レポート作成	GW	増石
14	グループワーク　発表	講義･GW	増石
15	グループワーク　発表、レポート作成	講義･GW	増石

テキスト	新体系 看護学全書 公衆衛生学（メヂカルフレンド社）※meebook
参考文献 参考書等	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	住民の健康づくりを支援する公衆衛生活動の基礎を他の関連する科目と並行して学びを深めてください

専門基礎分野	科　目	地域を支える仕組み	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	2 年次 前期
担当講師	横山 英史　　大学・短大・専門学校等 非常勤講師			
授業目標	社会保障・社会福祉の制度や政策、実施体系等について幅広く理解する。 また、社会福祉の実践と医療・看護との連携の実際について理解する。			

回	内　　容	方法
1	社会保障制度の概要	講義
2	現代社会の変化（人口の変化、地域社会の変化）	講義
3	医療保障	講義
4	医療保障	講義
5	介護保障	講義
6	介護保障	講義
7	高齢者虐待、児童虐待、障がい者虐待	講義
8	所得保障、公的年金制度	講義
9	所得保障、社会手当	講義
10	公的扶助、生活保護	講義
11	児童家庭福祉	講義
12	障がい者福祉	講義
13	高齢者福祉	講義
14	医療看護と福祉の連携	講義
15	まとめ	講義

テキスト	系統看護学講座 社会保障･社会福祉（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	教科書を中心に授業を進めます。 必要に応じて補足資料や要点をまとめた資料を配布するので、必ず復習してください。

専門基礎分野	科　目	法と看護	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	3 年次 前期
担当講師	山﨑 暁彦　　大学准教授			
授業目標	看護師に関わる法知識を学修する			

回	内　　容	方法
1	法とは何か ― 法の機能	講義
2	医の倫理 ― 患者の権利	講義
3	看護行為 ― 保健師助産師看護師法、チーム医療	講義
4	医療水準論	講義
5	看護過誤（1）ー療養上の世話に関わる事例の紹介	講義
6	看護過誤（2）ー診療上の補助に関わる事例の紹介	講義
7	人の生と死 ― 母体保護法、尊厳死、安楽死	講義
7.5	看護師の労働環境（45 分）	講義

テキスト	レジュメ・資料を配布します
参考文献 参考書等	なし
評価方法	筆記試験の結果、および学習意欲等を総合評価します（100 点満点）
履修上の アドバイス	法律の一般的な知識のみならず、就職後、巻き込まれるおそれのあるトラブル、すなわち加害者側として関わるもの、被害者として関わるものを総合的に検討していきます。

専門分野	科　目	基礎看護学概論Ⅰ	単位数 時間	1単位 30時間
	単元名		時期	1年次 前期
担当講師 実務経験	大戸 和子　看護師 専任教員28年・総合病院(脳神経外科、整形外科、救急外来など)11年			
授業目標	看護の基本となる概念を体系的に理解し、保健・医療・福祉の広い視野で看護の機能、役割を理解する。また、人間理解を基盤とし、専門職業人としての倫理的態度を習得する。			

回	内　　容	方法
1	基礎看護学の位置づけ　看護学概論を学ぶ意義　　看護に対する思いを語る 看護の歴史的変遷	講義･GW DVD
2	看護とは ヘンダーソンを知る 入学前課題「看護の基本となるもの」を参考に語る	講義・GW
3	看護とは フローレンスナイチンゲールを知る「看護覚え書き」を参考に語る	講義・GW
4	看護の役割と機能	講義・GW
5	看護の対象である人間理解(人間とは・人間のこころとからだの理解)	講義・GW
6	看護の対象である人間理解(人間と健康・環境との関係)	講義・GW
7	看護の対象である人間理解(暮らしの理解　生活者としての個人・家族・地域)	講義・GW
8	看護の対象である人間理解(健康状態と生活)	講義
9	看護理論(看護の実践を支える看護の考え方)	講義・GW
10	看護理論(看護の実践を支える看護の考え方)	講義・GW
11	看護活動の専門性(職業としての看護・資格)	講義
12	看護の提供の場	講義
13	看護における倫理(職業倫理　患者の権利　倫理問題)	講義・GW
14	看護における倫理(職業倫理　患者の権利　倫理問題)	講義・GW
15	目指す看護師像を明確に語ることができる	講義・GW

テキスト	系統看護学講座 看護学概論 (医学書院) ※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	・ﾌﾛｰﾚﾝｽ･ﾅｲﾁﾝｹﾞｰﾙ看護覚え書き(日本看護協会出版)小玉香津子訳※isho.jp ・看護の基本となるものﾌﾞｧｰｼﾞﾆｱ･ﾍﾝﾀﾞｰｿﾝ(日本看護協会出版)湯槇ます訳※isho.jp ・実践に生かす看護理論19第2版(サイオ出版)城ヶ端初子※isho.jp ・現代看護の探求者たち 増補第2版(日本看護協会出版)小林富美栄
評価方法	課題への取り組みと課題提出 (20%)、筆記試験 (80%) グループワーク参加状況から総合的に評価する　　100点満点で評価
履修上の アドバイス	授業を通して看護への関心を高め各領域の看護に繋げ深めるきっかけとしてほしい。また自身の考えを自分の言葉で表現し、人の話を聞く態度を身に着けてほしい。

専門分野	科　目	基礎看護学概論Ⅱ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	研　究Ⅰ	時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験	宮﨑 恵美　保健師 総合病院(小児科)等 1 年、大学助教 2 年			
授業目標	看護研究の基礎を学び、科学的思考や研究態度を養い、看護の実践を探求する能力を身につける			

回	内　　容	方法
1	看護研究の目的と意義	講義
2	研究デザインと研究のプロセス	講義･演習
3	文献検索の意義と方法	講義･演習
4	文献検索と文献カードの作成	講義･演習
5	実験･調査研究 データ収集の方法、調査研究の文献を読みクリティーク	講義･演習
6	質的研究 データ収集の方法、質的研究の文献を読みクリティーク	講義･演習
7	看護研究における倫理的配慮	講義･演習
7.5	まとめ（45 分）	講義

テキスト	系統的看護学講座 看護研究（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献	ひとりで学べる看護研究（照林社） 黒田裕子の看護研究　Step by Step（医学書院）
評価方法	授業への取り組み度（課題の提出）50 点 講義内レポート（クリティーク）50 点　　合計 100 点満点で評価
履修上の アドバイス	看護研究は臨床の場でも取り組まれています。看護研究の基本的な知識、看護の実践をもとに論理的、科学的に考える力を身につけましょう。

専門分野	科　目	基礎看護学概論Ⅲ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	研究Ⅱ	時期	3 年次 後期
担当講師 実務経験	佐藤 香　看護師 専任教員 4 年　総合病院(NCU､外科･ICU､消化器科など)21 年			
授業目標	実習の体験からケーススタディの過程を経験し、多角的視点から看護を追求する能力を養う			

回	内　　容	方法
1	オリエンテーション～内容とまとめ方 研究計画書の作成	講義 演習
2	ケーススタディのまとめ（原稿作成）	講義・演習
3	ケーススタディのまとめ（原稿作成）	演習
4	ケーススタディのまとめ（原稿作成）	演習
5	ケーススタディ発表準備（発表原稿作成）	演習
6 7	ケーススタディ発表	発表 （口演）
7.5	発表内容の評価（クリティーク、自己評価）(45 分)	講義・GW

テキスト	系統的看護学講座 看護研究（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統的看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	はじめての看護研究 ひとりで学べる看護研究　（照林社） 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方　（照林社）
評価方法	発表・レポート 1 ケーススタディをまとめるにあたっての態度（評価表：教員評価 10 点） 2 ケーススタディの内容、発表時の態度（評価表に沿って 80 点） 3 自己評価表、レポート（10 点）　　合計 100 点満点で評価
履修上の アドバイス	ケーススタディは自身の行った看護を確認し、発展させていく取り組みです。 担当教員と一緒にその一歩を踏み出しましょう。

専門分野	科　目	生活を支える技術Ⅰ	単位数 時間	1単位 15時間
	単元名	ヘルスアセスメント	時期	1年次 前期
担当講師 実務経験	鴫原りつ子　看護師 専任教員17年・総合病院(内科・外科・小児科・産婦人科・眼科)22年			
授業目標	対象の全体像を把握するための情報収集の基礎を理解する。 対象者の身体的な情報について五感を駆使して収集する方法を学ぶ。 身体各部の形態や身体機能を正しく計測し、評価する方法を学ぶ。			

回	内　　容	方法
1	ヘルスアセスメントとは・問診（面接）の技術	講義
2	セルフケア能力のアセスメント	講義
3	フィジカルアセスメントに必要な技術 視診・触診・聴診・打診の技術	講義
4	全身の概観	講義・演習
5	身体計測	講義
6	心理的・社会的側面のアセスメント・事例をもとに考える	講義・GW
7	身体計測の実際	演習
7.5	まとめ（45分）	講義

テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	
評価方法	筆記試験・レポート課題　合計100点満点で評価
履修上の アドバイス	テキストを読み、予習して講義に臨む。提出課題は評価対象となる。

専門分野	科　目	生活を支える技術Ⅱ	単位数 時間	1単位 30時間
	単元名	フィジカルアセスメント	時期	1年次 前期･後期
担当講師 実務経験	髙城 久充子　看護師 専任教員6年・総合病院(乳腺･消化器外科、手術室)6年			
授業目標	フィジカルアセスメントやバイタルサインの基礎的な知識を理解することができる。 対象の身体状態をフィジカルイグザミネーション技術を用いてアセスメントすることができる。			

回	内　　容	方法
1	バイタルサインの観察とアセスメント	講義
2	体温維持に関する基礎知識・体温測定の実際・意識の観察の実際	講義
3	脈拍に関する基礎知識・脈拍測定の方法	講義
4	呼吸に関する基礎知識・呼吸の観察方法	講義
5	血圧に関する基礎知識・血圧測定の方法	講義
6	バイタルサイン測定をしてみよう（体温・脈拍・呼吸・SpO_2・血圧）	演習・GW
7 8	バイタルサイン測定：体温・脈拍・呼吸・SpO_2・血圧	演習
9 10	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント（心音・肺音聴取・末梢循環）	講義・演習
11	消化器系のフィジカルアセスメント（腸蠕動音聴取・腹部の触診	講義・演習
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（歩行状態・筋力測定）	講義・演習
13	神経系のフィジカルアセスメント（意識状態・運動機能・感覚機能）	講義・演習
14	感覚器のフィジカルアセスメント（眼位・視力・視野・聴力）	講義・演習
15	まとめ	講義・演習

テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）
評価方法	筆記試験・レポート課題　　合計100点満点で評価
履修上の アドバイス	テキストを読み、予習して講義に臨む。レポートも評価対象となる。

専門分野	科　目	生活を支える技術Ⅲ		単位数 時間	1 単位 30 時間	
授業目標	人間にとっての環境調整・食事・排泄が、生命・QOL の維持につながることを理解することができる。また対象の基本的欲求とそれに伴う身体のメカニズムを理解し、援助に必要な専門的知識・技術・態度を習得する。					
単元名	生活環境		食べる		排　泄	
時期/時間	1 年次前期/10 時間		1 年次前期･後期/10 時間		1 年次後期/10 時間	
担当講師 実務経験	渡邊 留美　保健師･看護師 専任教員 1 年 病院(特殊疾患病棟･急性期病棟)17 年		氏家 芳枝　看護師 専任教員 9 年 病院(消化器内科･外科､呼吸器内科､在宅診療など)15 年		古川 智仁　看護師 教員 1 年 病院(循環器科・NCU・ICU・外来等)16 年	
回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法
1	援助の基礎知識 ･健康生活における環境 ･対象にとっての療養生活環境 ・生活環境調整における看護師の役割 ･病室環境のアセスメントと調整の必要性	講義 GW	食事を摂ることの意義、メカニズム	講義 GW	排泄の基礎知識 ・排泄とは何か（生きるために不可欠な排泄） ・トイレに行きたくなるのはなぜ？	講義 GW
2	病床の整備 ･ベッドの構造と種類 ･ベッドメイキングに必要なリネン類の取り扱い	演習	食事援助の基礎知識 ・栄養状態の把握 ・摂食能力のアセスメント	講義 GW	様々な排泄方法 ･排泄行動のプロセス ･尿器･便器､ポータブルトイレの使用方法	講義 演習
3	援助の実際 ･ベッドメイキング（クローズドベッド･オープンベッドのつくり方･リネンのたたみ方）	演習	食事援助の実際 ・対象に合わせた食事援助を考える	講義 GW	排泄援助の実際 ･対象の状態に応じた援助を考える（その人の排泄を援助する） ･自然に排泄ができないときはどうするのか	講義 GW
4	援助の実際 （臥床患者のリネン交換･療養生活環境の調整）	演習	食事介助と口腔ケアの実際	演習	実際にベッド上排泄(おむつ交換･陰部洗浄)の援助をする	演習
5	・演習における学びの発表 ・生活環境調整における看護師の役割（GW）	講義 GW	食事を口から摂取できない対象の看護について ・経管栄養法 ・中心静脈栄養法	講 義 演習	・浣腸・摘便の目的、方法、留意点 ･人工肛門（ストーマ）の管理、留意点や根拠	講義 演習
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ					
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）					
評価方法	筆記試験（生活環境 40 点・食べる 30 点・排泄 30 点の合計 100 点満点で評価）					
履修上のアドバイス	【生活環境】療養環境は患者の闘病意欲や回復過程、QOL（生活の質）に大きく影響している。物理的環境と人的環境条件を理解し、患者個々の健康回復の段階に応じて調整していく視点が持てるように学習する。 【食べる】対象にとっての食事の意義を理解し、援助の必要性を考え観察の視点をもてるように学習する 【排泄】生命維持に不可欠な排泄の意義やメカニズムを解剖生理学と連動して理解し、看護援助に必要な排泄のアセスメント方法を学ぶ。					

専門分野	科　目	生活を支える技術Ⅳ	単位数 時間	1 単位 30 時間
授業目標	人間にとって安寧な生活を送るために必要とされる清潔保持、活動と休息のバランスを保つための援助について、必要性と援助の実際を学習し技術と態度を習得する。			
単元名	清　潔		活　動	
時期/時間	1 年次前期/15 時間		1 年次前期･後期/15 時間	
担当講師 実務経験	佐藤 知子　看護師 専任教員 23 年 病院(消化器外科､内科､小児科など)9 年		氏家 芳枝　看護師 専任教員 9 年 病院(消化器内科･外科､呼吸器内科､ 在宅診療など)15 年	
回	内　容	方法	内　容	方法
1	清潔援助の基礎知識	講義 GW	身体を動かすことの意義	講義 演習
2	清潔援助とアセスメント	講義 GW	廃用症候群、体位変換について	講義 演習
3	清潔に関する援助の実際 （足浴と爪切り）	演習	ボディメカニクスについて 体位変換技術の実際	講義 演習
4	清潔に関する援助の実際 （洗髪と整容）	演習	睡眠・休息の基礎知識	講義
5	清潔に関する援助の実際 （洗髪と整容）	演習	車椅子・ストレッチャーへの 移乗・移送	講義
6	清潔に関する援助の実際 （全身清拭と寝衣交換）	演習	車椅子・ストレッチャーへの 移乗・移送	演習
7	清潔・衣生活に関する援助の実際 （全身清拭と寝衣交換）	演習	車椅子・ストレッチャーへの 移乗・移送	演習
7.5	単元のまとめ（45 分）	講義	まとめ（45 分）	講義
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ			
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）			
評価方法	筆記試験（各単元 50 点の合計 100 点で評価）			
履修上の アドバイス	【身体の清潔を保つ】疾病・障害など何らかの理由により、普段通りの清潔・衣生活の維持が困難になった場合、患者に与える影響（生理学的な面・精神的な面）を考える。清潔保持の意味を踏まえた上で清潔援助の効果を理解し、患者個々に適した援助方法があること、またその具体的な実施方法について留意点を含めて学習する。 【姿勢を保つ･活動を整える】全ての看護技術の実践においてボディメカニクスの知識・技術は必要となる。対象・看護者の両者にとって負担のない援助の実践につながるよう習得してほしい技術である。			

専門分野	科　目	生活を支える技術Ⅴ		単位数 時間	1 単位 30 時間
授業目標	診療を受ける対象に安全、安楽な技術を提供するために必要な基本的知識・技術を習得する。 対象と看護者の安全を守るための、感染防止の基礎的知識・技術を習得する。				
単元名	検査・治療		罨法・包帯・穿刺		感　染	
時期/時間	1 年次後期/18 時間		1 年次後期/6 時間		1 年次前期/6 時間	
担当講師 実務経験	氏家 芳枝　看護師 専任教員 9 年 病院(消化器内科･外科､呼吸器内科､在宅診療など)15 年		古川 智仁　看護師 教員 1 年 病院(循環器科・NCU・ICU・外来等)16 年		佐藤 知子　看護師 専任教員 23 年 病院(消化器外科､内科､小児科など)9 年	
回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法
1	臨床検査の意義と種類/臨床検査時の看護師の役割	講義	罨法の意義と援助の実際	講義 演習	感染防止の基礎知識と標準予防策 （演習：手指衛生・個人防護用具）	講義 演習
2	心電図による生体情報のモニタリングと診察の介助	講義 演習	創傷管理の基礎知識と創洗浄/日常的に活用できる基本的な包帯法の実際	講義 演習	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識と無菌操作の基本､感染経路別の予防策の基本的知識	講義
3	画像診断による生体情報のモニタリングと診察の介助	講義 演習	穿刺の意義と目的/穿刺時の看護師の役割	講義	滅菌物の取り扱いと無菌操作､感染性廃棄物の取り扱い	演習
4	超音波・肺機能・核医学検査による生体情報のモニタリングと診察の介助	講義 演習				
5	酸素吸入療法の目的や方法	講義 演習				
6	排痰ケアの基礎知識と援助方法	講義 演習				
7 8 9	モデル人形や身体を使って、実際の援助を実践する	演習				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ					
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） 成人看護学　成人看護技術（南江堂）					
評価方法	筆記試験（検査･治療 60 点・罨法･包帯･穿刺 20 点・感染 20 点　合計 100 点満点で評価）					
履修上のアドバイス	【検査･治療】今回の学習を臨地実習での実際の援助場面で知識を活用しながら見学や体験することができるようにしましょう。 【罨法･包帯･穿刺】今回の学習を臨地実習での実際の援助場面で知識を活用しながら見学や体験することができるようにしましょう。 【感染】安全安楽な援助を行う上では、清潔不潔の区別をしっかり理解し感染防止に努める必要がある。					

専門分野	科　目	生活を支える技術Ⅵ	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	与　薬	時期	2 年次 前期
担当講師 実務経験	渡邊 留美　保健師・看護師 専任教員 1 年・病院(特殊疾患病棟･急性期病棟)17 年			
授業目標	対象に薬剤を投与する「与薬」は、医師の指示に基づいて行われる診療補助技術であることを理解し、科学的根拠に基づき対象へ安全で効果的な与薬を実施するために必要な基礎的知識と技術を学ぶ。			

回	内　　容	方法
1	・与薬の基礎的知識（目的・種類・方法） ・薬物療法における多職種の役割と連携、与薬における看護師の役割 ・安全な与薬を行うための６R、ダブルチェック	講義・GW
2	・経口薬の投与 ・経皮・外用薬の投与	講義・演習
3	・麻薬・劇薬・毒薬の管理 ・麻薬の投与と残薬の処理	講義・演習
4	・注射の目的種類と方法（皮下注射・皮内注射・筋肉内注射・静脈内注射・点滴静脈注射・輸液ポンプ・中心静脈カテーテル） ・注射器具の使用方法・針刺し事故防止の対策	講義・演習
5	注射演習①（皮下注射・筋肉内注射の実施）	演習
6	注射演習②（静脈内注射の実施）	演習
7	注射演習③（静脈内採血の実施）	演習
7.5	与薬における看護師の役割（45 分）	講義・GW

テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）
評価方法	筆記試験（100 点満点）
履修上の アドバイス	これまで学習した知識を活用し、安全な与薬を行うためにはどうすればいいのか、看護師に求められる役割は何かを考えながら正確な与薬技術を習得しましょう。

基礎分野	科　目	臨床判断する力Ⅰ	単位数 時間	1単位 45時間
	単元名		時期	1年次 後期

担当講師	氏家 芳枝　看護師 専任教員9年 病院(消化器内科･外科､呼吸器内科､在宅診療など)15年	佐藤 香　看護師 専任教員4年 総合病院(NCU､外科･ICU､消化器科など)21年	渡邊 留美 保健師･看護師 専任教員1年 病院(特殊疾患病棟･急性期病棟)17年

授業目標	①日常生活援助場面を、ヘンダーソンの基本的欲求（14項目）から統合して捉える ②捉えたことから判断し、看護援助を実践する ③実践した場面からリフレクションし次の課題を見つける ④課題をメンバーと共有し省察する

回	内　容	方法
1 ～ 19	看護に求められる臨床判断能力とは何かを実技を通して考える 日常生活の援助場面、食べる・排泄・活動と環境の３事例を基に場面で必要とされる看護援助を実践する ①事例提供と気づきの共有 ②事例のアセスメント：観察・援助の視点を考える ③シミュレーション（援助の実践発表） リフレクション：個人→他者との対話→集団での振り返り ・背景に気付く ・解釈する ・反応を捉える ④省察・まとめ　※1事例を6回×3事例展開	演習 実技
20 ～ 22.5	実践評価（実技試験） 提示された事例から、状況を判断する能力を評価する	演習 実技

テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ（医学書院）※eﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※eﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 臨床看護総論（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	事例内容によりその都度指示
評価方法	課題・学びのレポート70点、実践評価30点　　合計100点満点で評価
履修上のアドバイス	臨床判断は看護するうえで大切な能力となります。その基礎を身に付けられるように、グループのメンバーと協力して学んでいきましょう。

基礎分野	科　目	臨床判断する力Ⅱ	単位数 時間	1 単位 45 時間
	単元名		時期	2 年次 後期

担当講師	氏家 芳枝　看護師 専任教員 9 年 病院(消化器内科･外科､呼吸器内科､在宅診療など)15 年	佐藤 香　看護師 専任教員 4 年 総合病院(NCU､外科･ICU､消化器科など)21 年	渡邊 留美 保健師･看護師 専任教員 1 年 病院(特殊疾患病棟･急性期病棟)17 年

授業目標	①患者から得られる情報を関連させ、その背景や原因を考えられる ②患者に及ぼしている影響を気づくことができる ③科学的思考の視点から援助を計画できる ④患者の安全・安楽を踏まえ看護援助を実践できる

回	内　容	方法
1 ～ 22.5	事例を提示し、看護実践と臨床判断能力の関係を実技を通して考える （循環、呼吸、栄養に関する診療の補助業務を経験し、 対象の観察と異常の早期発見のための技術について学ぶ） 実習で出会う対象の中から 2 事例を使い①～⑤を実践する ①事例の提示と気づきの共有 ②対象の症状や観察した情報から考える ・対象から出ているサインを読み取る ・正常・異常　体の中で何が起きているのかを考える ③必要な観察・援助を考える ④シミュレーション（援助の実践発表） リフレクション　　個人→他者との対話→集団で振り返る ・背景に気付く ・解釈する ・反応を捉える ⑤省察・まとめ ※1 事例を 10 コマ×2 事例展開 実践・評価　5 時間 提示された事例から状況判断し、観察・援助する能力を評価する	演習 実技

テキスト	系統看護学講座 臨床看護総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	事例内容によりその都度指示
評価方法	課題・学びのレポート 70 点、実践評価 30 点　　合計 100 点満点で評価
履修上の アドバイス	臨地実習での経験を振り返りながら、看護に必要とされる臨床判断能力を養います。 グループメンバーと協力し、学びを共有しながら学習していきましょう。

専門分野	科　目	地域とくらし	単位数 時間	2 単位 30 時間
	単元名		時期	1 年次 前期
担当講師	日下部 ひとみ　看護師 専任教員 11 年・総合病院(内科･性差医療センター等)9 年、保健指導相談員 8 年			
授業目標	自分が生活している地域の特性を理解する 地域で暮す人の生活の実際を知る			

回	内　　容	方法
1	生活環境と暮らし　自分の住んでいる地域を理解する	講義
2	人々の暮らしを理解する	講義
3	地域の理解と地域包括ケアシステム	講義
4	学校のある地域を理解する	演習
5	福島市の地域の特性と課題をまとめる	演習
6	福島市の地域の特性と課題をプレゼンテーションする	演習
7	地域資源マップ作製①	演習・GW
8	地域資源マップ作製②	演習・GW
9	地域資源マッププレゼンテーション準備	演習・GW
10	発表	演習
11	暮らしが人々の生活に与える影響、健康が暮らしに与える影響	講義
12	地域・在宅看護が提供される場	講義
13	地域でその人らしく生活するための社会資源	講義・演習
14	地域で暮らす人々への看護の役割	講義
15	まとめ	講義

テキスト	系統看護学講座　地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤　医学書院
参考文献 参考書等	地域の広報誌など
評価方法	課題レポート 10 点　プレゼンテーション 10 点　筆記試験 80 点
履修上の アドバイス	生活の基盤となる地域を理解し、自分が地域で生活する一員であることを自覚して下さい

専門分野	科　目	地域コミュニティ論	単位数 時間	1単位 15時間
	単元名		時期	1年次 後期
担当講師	森 明人　　大学 准教授			
授業目標	地域コミュニティの機能と構造を理解する。 身近な市町村・自治体の圏域の考え方と社会資源の配置について理解する。			

回	内　　容	方法
1	地域コミュニティとは何か 現在の日本社会とコミュニティについて概観し、コミュニティ理解の３つの視点について学びます。その上で、人口減少や少子高齢化、単身化社会の諸相について理解します。	講義
2	支え合うコミュニティ 社会的孤立・ひきこもり等が社会的共通課題になる中で、小中学校区・町内会を基盤とする地域福祉活動等の社会資源をめぐる現状と課題について学びます。	講義
3	ケアとコミュニティ ケアリングコミュニティについて、ケアの当事者性、地域自立生活支援、参加・協働、地域共生社会の制度・政策、地域経営について学びます。	講義
4	市町村と地域自治について 地方自治の基本的な仕組みを概観しながら、多様な地域課題に対応する市町村行政組織と地域自治組織の連携について学びます。	講義
5	介護保険制度と地域包括ケアシステム 市町村の地域包括支援センターを中心とする地域包括ケアシステムの構築と展開における地域コミュニティの役割について学びます。	講義
6	地域共生社会の実現と地域づくりの展望 地域共生社会と全世代・全対象型の地域包括支援体制の構築に向けた政策の動向と地方自治体の事例について学びます。	講義
7	コミュニティプロファイリングについて 福島市社協の地域福祉活動計画の内容をベースに、地域のニーズと社会資源を包括的に記述する方法について学びます。	講義
7.5	これまでの講義を総括し、ディスカッション形式で進めます。(45分)	講義

テキスト	適宜資料を配布します。
参考文献 参考資料等	適宜資料を配布します。
評価方法	ミニテスト40%、受講態度60%を総合的に評価します。　100点満点で評価
履修上の アドバイス	保健・医療・介護・福祉などを始めとする人々の社会生活を支えるの基本的な社会資源を身近な市町村をもとに学習します。

専門分野	科　目	地域・在宅看護論概論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	概　論	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	畠山 とも子　看護師 総合病院（腎臓内科など）26 年、大学 19 年			
授業目標	保健・医療・福祉ケアシステムの中での在宅看護の位置づけを理解し、在宅における看護職の役割を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	在宅看護の目的と特徴	講義
2	在宅看護の対象者（1）	講義
3	在宅看護の対象者（2）	講義
4	在宅療養の支援	講義
5	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用（1）	講義
6	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用（2）	講義
7	在宅看護の展開（1）	講義
7.5	在宅看護の展開（2）（45 分）	講義

テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考資料等	家族看護を基礎とした在宅看護論Ⅰ　実践編（日本看護協会出版会）
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストを中心に予習・復習して講義に臨んでください。

専門基礎分野	科　目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅰ	単位数 時間	1単位 30時間
	単元名		時期	2年次 前期
担当講師 実務経験	大内 由里子　脳卒中リハビリテーション認定看護師 病院(脳神経外科)17年、訪問看護ステーション4年			
授業目標	療養者の日常生活から必要とされる看護支援を見極めるための動作分析と在宅で求められる医療技術と看護を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	在宅で看護を展開するにあたって	講義
2	呼吸器に関する在宅看護技術	講義
3	食生活・嚥下に関する在宅看護技術	講義
4	排泄に関する在宅看護技術	講義
5 6	移動・移乗に関する在宅看護技術	講義
7	清潔に関する在宅看護技術	講義
8	認知機能のアセスメント法と援助技術　　コミュニケーションの支援	講義
9	在宅におけるエンドオブライフケア	講義･ＧＷ
10	褥瘡の予防とケア	講義
11	尿道留置カテーテル　　ストーマ（人口肛門・人口膀胱）	講義
12	経管栄養法　　在宅中心静脈栄養法（ＨＰＮ）	講義
13	非侵襲的陽圧換気療法（ＮＰＰＶ）　　在宅酸素療法（ＨＯＴ） 人口呼吸療法（ＨＭＶ）と排痰法	講義
14 15	外来がん治療の支援　　疼痛緩和	講義

テキスト	系統看護講座 地域・在宅看護の実践（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考資料	写真でわかる訪問看護アドバンス（インターメディカ） 在宅看護技術ガイド（学研）
評価方法	筆記試験（100点満点で評価）
履修上の アドバイス	在宅看護論など統合分野で学習した知識と日常生活援助技術を復習し、講義に臨んでください。

専門基礎分野	科　目	地域・在宅での生活を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名		時期	3 年次 前期
担当講師 実務経験	渡部 典美　保健師　診療所･訪問看護ステーション･介護支援事業所等(33 年) 飯田 佳奈子　看護師　総合病院等(13 年)、訪問看護ステーション(8 年)			
授業目標	在宅看護活動の実践例から多様な対象への看護を理解する			

回	内　容	方法	講師
1 2	在宅看護介入時期別の特徴	講義 GW	渡部 飯田
3	脳卒中をおこした患者の在宅療養導入の事例展開	講義	渡部 飯田
4	パーキンソン病の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	渡部 飯田
5	認知症療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	渡部 飯田
6	小児の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	渡部 飯田
7	ALS で人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開	講義	渡部 飯田
8	COPD の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	渡部 飯田
9	独居の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	渡部 飯田
10	終末期の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	渡部 飯田
11	統合失調症の療養者に対する在宅看護の事例展開	講義	
12 13 14 15	シュミレーション学習 2 回~11 回の具体的事例の看護展開を行う 技術を伴う演習を行う	講義 GW	渡部 飯田

テキスト	系統看護講座 地域・在宅看護の実践（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考資料	家族看護を基礎とした在宅看護論Ⅱ　実践編（日本看護協会出版会）
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストの予習をお願いします。 事例がある場合はイメージできるようにしておいてください。

専門分野	科　目	成人看護学概論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	概　論	時期	1 年次 前期
担当講師 実務経験	原 恵理子　看護師 専任教員 7 年・総合病院(ICU､外科､消化器･循環器科など)22 年			
授業目標	成人期の特徴を理解し、成人期における健康問題を解決するために必要となる対象のセルフケア能力を活かし、対象が自己の健康を管理できるように支援できる看護師の役割を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	成人の生活状況の特徴と健康問題	講義
2	ライフスタイルと疾病のつながり	講義・GW
3	成人への看護アプローチの基本	講義
4	地域社会や職場におけるヘルスプロモーションを促進する看護	講義
5	成人の健康レベルに対応した看護（急性期）	講義
6	成人の健康レベルに対応した看護（回復期）	講義・GW
7	成人の健康レベルに対応した看護（慢性期）	演習・GW
7.5	成人の健康行動を考える＝自分の生活を見てみよう（45 分）	発表

テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	国民衛生の動向を参考に社会の状況と大人の生活環境がどのように影響しあっているか考え、健康教育の実践につながるヘルスプロモーションを促進する看護を学びましょう

専門分野	科　目	成人の生活を支える看護Ⅰ	単位数 時間	1単位 30時間

単元名	危機的状況にある人の看護 呼　吸	危機的状況にある人の看護 循　環	危機的状況にある人の看護 栄　養
時期/時間	1年次後期/10時間	1年次後期/10時間	1年次後期/10時間
担当講師 実務経験	今野 暁子 呼吸器疾患看護認定看護師 総合病院 (内科･呼吸器外来など)27年	鈴木 安英 クリティカルケア認定看護師 総合病院 (救急･脳神経外科など)16年	佐藤 知子　看護師 専任教員23年 病院(消化器外科､内科､ 小児科など)9年
授業目標	・呼吸器疾患看護について具体的な経験や事例と結び付け患者をイメージできるようになる。 ・呼吸器疾患看護の基礎知識を習得し、看護実践･患者指導に活用することができる。	循環機能障害をもつ対象の問題を統計的にとらえ、危機的状況にある対象への看護の方法を理解する。	①消化器に疾患を持つ患者の特徴を理解する ②消化器疾患患者に必要な看護援助を学ぶ ③消化器看護における看護師の役割を理解する

回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法
1	フィジカルアセスメント	講義	循環器の基礎症状、 心不全の看護	講義	人間にとっての食べることの意味 疾患による生命・生活への影響	講義
2	検査を受ける患者の看護	講義	循環器治療における看護	講義	検査を受ける患者の看護	講義
3	呼吸器疾患をもつ対象のアセスメントと看護	講義	補助循環、心電図不整脈	講義	胃がん患者の看護 1)術前・術後の看護 急性期における身体状況の変化と心理的変化 2)回復期の看護日常生活の再調整	講義
4	呼吸器疾患治療における看護 （吸入療法･酸素療法）	講義	循環器特融の薬剤と看護	講義	肝硬変のある人への看護 1)未発症にある人への支援(代償期) 2)症状を呈している人への支援(非代償期) 3)病状の変化に伴う心理的支援	講義
5	呼吸器疾患治療における看護 （胸腔ドレナージ･ 人口呼吸器）	講義	循環器症例のアセスメント	講義	人工肛門を造設する人へのセルフケア再獲得 1)人工肛門とは 2)日常生活および職業生活に向けた人工肛門のセルフケアの確立	講義

テキスト	系統看護学講座 呼吸器（医学書院）※eﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 循環器（医学書院）※eﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 消化器（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）
評価方法	筆記試験（呼吸30点、循環30点、栄養40点　合計100点満点で評価）
履修上のアドバイス	【呼吸】講義では具体例を入れて経験や事例を結び付け、意味づけを理解を深める。 学習の目的を明確に伝え、目的を自覚し学習に取り組めるようにする。 自己効力がたかまるよう、講義では言語的賞賛によってﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸして学習で得た知識を尊重する。 【循環】主に講義で進めますが、症例等をふまえ、実際に考えてもらうようにしたいと思います。また、講義資料はパワーポイントで作成し、配布資料にも工夫をしたいと思います。 【栄養】“食べる”ことの重要性を理解し、事例から患者さんは疾患により日常生活にどのような影響を受けることになるのか、また講義全体から消化器看護の特徴と看護師の役割を学びましょう。

専門分野	科　目	成人の生活を支える看護Ⅱ		単位数 時間	1 単位 30 時間	
単元名	障害受容期にある人の看護 感覚		障害受容期にある人の看護 脳神経		障害受容期にある人の看護 運動	
時期/時間	2 年次前期･後期/10 時間		2 年次前期･後期/10 時間		2 年次前期･後期/10 時間	
担当講師 実務経験	渡部 公博　看護師 総合病院 (皮膚科耳鼻科眼科)等 7 年		大内 由里子 脳卒中ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ認定看護師 病院(脳神経外科)17 年 訪問看護ステーション 4 年		本多 文子　看護師 総合病院(整形外科)等 37 年	
授業目標	感覚機能障害をもつ対象の症状や治療・処置に対する看護について理解できる		健康状態に急激な変化を受け回復的な段階にある成人の特徴を理解し、障害受容期にある人の健康問題を統合的に捉え、障害受容と障害の改善と克服への看護の展開を学ぶ		運動機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、障害受容期にある対象への看護の方法を学ぶ	
回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法
1	眼科看護 (眼圧検査､治療､IOL､網膜剥離､緑内障､外来診察･点眼法の看護)	講義	1 脳神経障害症状のアセスメントと看護の視点 1)意識障害､高次機能障害 2)運動(麻痺･失調)･感覚の異常､失語､けいれん 3)嚥下障害､呼吸障害､排泄障害､バイタルサインの変化	講義	運動機能障害をもつ対象の特徴と看護の役割	講義
2	皮膚科 (アトピー､熱傷､症状と対象看護)	講義	2 脳神経機能検査時における看護 1)髄液検査 2)脳波 3)脳血管造影 3 脳神経治療における看護(開頭術･穿頭術･血管バイパス術)	講義	運動機能障害に伴って生じる主要症状に対する看護	講義
3	皮膚科 (帯状疱疹､疥癬､スキンケア､褥瘡､泡洗浄)	講義	3 脳神経治療における看護(血管内治療･脳室ドレナージ術･脳室-腹腔シャント術) 4 脳神経障害をもつ対象のアセスメントと看護 (脳血管障害)	講義	運動機能障害を持つ対象の検査・治療に対する看護	講義
4	口(抜歯､がん看護) 鼻(出血､副鼻腔炎)	講義	4 脳神経障害をもつ対象のアセスメントと看護 (脳腫瘍･脳梗塞･小脳疾患)	演習	運動機能障害を持つ対象のアセスメントと看護	講義
5	耳鼻科(メニエール､突発性難聴などの検査､オージオメーター､咽頭･咽喉がん患者の看護)	講義	4 脳神経障害をもつ対象のアセスメントと看護 (頭部外傷･脊髄損傷･脳死状態)	講義	運動機能障害をもつ対象のアセスメントと看護	講義
テキスト	系統看護学講座 皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯・口腔（医学書院）、 系統看護学講座 脳･神経（医学書院）、系統看護学講座 運動器（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ					
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）					
評価方法	筆記試験(感覚 30 点、脳神経 40 点、運動 30 点　合計 100 点満点で評価)					
履修上のアドバイス	【感覚】パワーポイントと教科書を使用します。教科書を持参してください。 【脳神経】解剖生理･病態生理など専門基礎分野で学習した知識と日常生活援助技術を復習し講義に臨んでください。 【運動】解剖生理､専門基礎分野で学んだ各機能障害について復習しておいてください。それぞれの機能障害をもつ患者の特徴と機能障害が生活に与える影響を考え、看護の役割に結び付けてください。					

専門分野	科　目	成人の生活を支える看護Ⅲ		単位数 時間	1 単位 30 時間	
単元名	セルフケア期にある人の看護 内部環境調節		セルフケア期にある人の看護 代　謝		セルフケア期にある人の看護 生体防御	
時期/時間	2 年次前期･後期/10 時間		2 年次前期･後期/10 時間		2 年次前期･後期/10 時間	
担当講師 実務経験	茂木 光代 看護師･大学非常勤講師 総合病院等 9 年 訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ 1 年		幕田 香 皮膚排泄ケア認定看護師 総合病院 (循環器科･脳神経外科など)20 年		日下部 ひとみ　看護師 専任教員 11 年 総合病院(内科など)9 年 保健指導相談員 8 年	
授業目標	内部環境調節機能障害をもつ対象の健康問題を統合的に捉え、慢性期にある対象への看護の方法を理解する		成人期にある対象の特性をふまえ、栄養代謝･内分泌環境･栄養代謝機能に健康障害を持つ対象への看護について学び、看護実践につながることができる		1. 生体防御機能障害が生活に与える影響を理解することが出来る 2. 生体防御機能障害に行われる、検査・治療時の看護を理解することができる 3. 生体防御機能障害の経過に応じた看護を理解することができる 4. 生体防御機能障害をもつ患者の苦痛を理解することができる	
回	内　容	方法	内　容	方法	内　容	方法
1	内分泌機能障害症状のｱｾｽﾒﾝﾄと看護の視点	講義	代謝機能障害症状のアセスメントと看護	講義	生体防御機能とその障害（アレルギー反応）	講義
2	内分泌機能検査時の看護(ﾎﾙﾓﾝ負荷試験・ﾎﾙﾓﾝ濃度測定) 内分泌疾患の治療における看護(ﾎﾙﾓﾝ･手術療法)	講義	代謝機能障害時の治療における看護	講義	生体防御機能障害の症状と看護（貧血）	講義
3	内分泌機能障害をもつ対象のｱｾｽﾒﾝﾄと看護(ﾊﾞｾﾄﾞｳ病)	講義	高尿酸血症、高脂血症、肥満における看護	講義	造血器腫瘍患者の看護	講義
4	腎機能障害症状のｱｾｽﾒﾝﾄと看護の視点 腎機能検査時の看護(静脈性尿路造影、腎機能検査、腎生検)	講義	インスリン自己注、ＳＮＢＧ、フットケア演習	演習	生体防御機能障害患者の検査・治療	講義
5	腎機能治療における看護(食事･運動療法･透析･腎移植) 慢性腎不全･ﾈﾌﾛｰｾﾞ症候群をもつ対象のｱｾｽﾒﾝﾄと看護	講義	糖尿病患者の看護過程の展開 小テスト	講義	自己免疫疾患 （膠原病・HIV）	講義
テキスト	系統看護学講座 血液･造血器、系統看護学講座 内分泌･代謝、 系統看護学講座 腎･泌尿器、系統看護学講座ｱﾚﾙｷﾞｰ 膠原病 感染症(医学書院)※e ﾃｷｽﾄ					
参考文献 参考書等	成人看護学 成人看護技術（南江堂）					
評価方法	筆記試験(内部環境調節 30 点、代謝 30 点、生体防御 40 点　合計 100 点満点で評価)					
履修上のアドバイス	【内部環境調節】テキストを中心に自学自習に励むこと。 【代謝】事前にテキスト等で予習しておくこと。 【生体防御】解剖生理、専門基礎分野で学んだ各機能障害について復習しておいてください。それぞれの機能障害をもつ患者さんの特徴と機能障害が生活に与える影響を考え、看護の役割にについて考えてもらうとともに、患者さんの苦痛を理解し、実際にどのように患者さんに関わっていくかについても考えてもらいたいです。					

専門分野	科　目	老年看護学概論	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	概　論	時期	1 年次 前期･後期
担当講師 実務経験	日下部 ひとみ　看護師 専任教員 11 年・総合病院(内科･性差医療センター等)9 年、保健指導相談員 8 年			
授業目標	老年期の特徴や生活を理解し、高齢者の健康と生活を支える看護を理解する。 また、高齢者に関連する保健・医療・福祉制度や倫理的な問題と課題について習得する。			

回	内　　容	方法
1	老年看護学概論の概要・高齢者のイメージ	講義・GW
2	ライフサイクルからみた老年期（高齢者の生活史）	講義
3	加齢に伴う身体機能の変化と特徴	講義
4 5	①高齢者に関心をもつ（ＤＶＤ学習） ②加齢に伴う心身機能の変化と特徴	講義・GW
6	高齢者をとりまく社会を理解する①（高齢社会の統計的輪郭）	講義
7	高齢者をとりまく社会を理解する②（地域包括ケアシステム）	講義
8	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義
9	老年看護の特徴と役割	講義
10 11	認知症理解する（ＤＶＤ学習）	講義・GW
12	高齢社会における権利擁護	講義
13 14	①高齢者疑似体験 ②高齢者体験レポート	演習
15	超高齢社会における老年看護	講義

テキスト	系統看護学講座　老年看護学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	国民衛生の動向（厚生労働統計協会）
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	日常生活でも高齢者の様子を観察したり、身近な高齢者とコミュニケーションをとるなど高齢者に興味や関心をもって下さい。 高齢者に対するイメージを具体的に持ち、発見や共感を得て欲しいと思います。 知識を得るだけではなく、老年看護を実践する人として、高齢者の権利擁護のための判断力や行動力も身につけて下さい。。

専門分野	科　目	老年の生活を支える看護Ⅰ	単位数 時間	1単位 30時間
	単元名	健康障害、医療福祉	時期	2年次 前期・後期
担当講師 実務経験	茂木 光代　　看護師・大学准教授 総合病院等9年、訪問看護ステーション1年実務経験有			
授業目標	1. ヘルスアセスメントの基本を理解する 2. 加齢と健康障害がもたらす生活への影響を理解し、より健康的に生きていくための支援方法を理解する 3. 老年期に特有な症候、疾患と看護について理解する 4. 終末期における看護および家族への援助を理解する			

回	内　　容	方法
1	ヘルスアセスメントの基本	講義
2	身体の加齢的変化：皮膚（老人性皮膚掻痒症)、視覚障害（白内障、他） 聴覚障害（難聴)、循環器系（心不全)、呼吸器系（COPD）	講義
3	身体の加齢的変化：消化器系、泌尿器系、運動系（サルコペニア、ロコモティブシンドローム）	講義
4	高齢者の生活機能を整える看護：転倒（骨折、骨粗鬆症）廃用症候群	講義
5	高齢者の生活機能を整える看護：食事（誤嚥性肺炎）排泄（失禁）	講義
6	高齢者の生活機能を整える看護：清潔（褥瘡)、睡眠障害	講義
7	高齢者の生活機能を整える看護：コミュニケーション障害、社会参加	講義
8	高齢者に起きやすい症候と看護（発熱、疼痛、脱水）	講義
9	高齢者に起きやすい症候と看護（浮腫、嘔吐、倦怠感）	講義
10	老年期に特徴的な疾患と看護（脳卒中、糖尿病、がん）	講義
11	老年期に特徴的な疾患と看護（パーキンソン病、インフルエンザ）	講義
12	老年期に特徴的な疾患と看護（高齢者のうつ、せん妄）	講義
13	老年期に特徴的な疾患と看護（認知症）	講義
14	治療を必要とする高齢者の看護（検査、薬物療法、手術）	講義
15	エンドオブライフケア（意思決定の支援、家族支援）	講義

テキスト	系統看護学講座 老年看護学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 老年看護学 病態・疾患論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介　資料配布
評価方法	筆記試験（100点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストを中心に自学自習に励むこと。

専門分野	科　目	老年の生活を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	健康・医療・福祉制度の理解			
時期/時間	2 年次前期/8 時間		2 年次前期/22 時間	
担当講師 実務経験	森 美樹　社会福祉士 包括支援センター等 28 年		本田 舞　看護師 総合病院(外科･呼吸器内科、婦人科など)13 年 阿部 真由美　看護師 総合病院(呼吸器科内科､感染症病棟)等 26 年	
授業目標	住民が歳を重ねても自分らしく暮らし続けるために必要な仕組みや制度を知る。 またその運用のために医療･介護の専門職が果たすべき役割について知ることができる		高齢者が地域で生活するために健康･医療･福祉の制度を、事例を通して理解する。	

回	内　容	方法	講師
1	地域包括ケアシステムの構築と推進について	講義	森
2	認知症施策と介護保険利用の流れ	講義	森
3	介護予防と社会資源	講義	森
4	権利擁護とそのための諸制度	講義	森
5	高齢者の在宅生活を支える看護サービスについて理解する 高齢者のヘルスプロモーションについて	講義	阿部
6	在宅高齢者の看護について（訪問看護）	講義	阿部
7	治療･介護を必要とする高齢者を含む家族の看護について 多職種連携実践による活動について	講義	阿部
8	治療を必要とする高齢者の看護について リハビリテーションを受ける高齢者の看護について KYT について	講義	阿部
9	入院治療を受ける高齢者の看護について	講義	阿部
10	対象の生活環境のアセスメント調整について　まとめ	講義	阿部
11	介護保険法の復習	講義	本田
12	介護保険法を考慮した事例（グループワーク）	講義 GW	本田
13	介護保険施設	講義	本田
14	介護保険施設における看護、グループホーム	講義	本田
15	介護小規模多機能型居宅介護､地域密着型､サービス付き高齢者向け住宅	講義	本田

テキスト	系統看護学講座 老年看護学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宣関係図書紹介 資料配布
評価方法	筆記試験（森 30 点、阿部 40 点、本田 30 点　合計 100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	【森】“自分らしく暮らすことへの支援”をキーワードとして学習を進めてください。 【阿部･本田】学びを通して改めて高齢者が地域生活することの大切さを学んでください。

専門分野	科　目	小児看護学概論	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	概　論			
授業目標	小児看護の変遷を学び小児看護の現状と今後の課題を理解する。 小児看護の対象である子どもの健康の保持・増進、健康の回復を促すためには、子どもと家族がおかれている社会環境についても様々な側面から学びを深めることができる。			
時期/時間	1 年次後期/10 時間	1 年次後期/20 時間		
担当講師 実務経験	茂木 光代　看護師･大学非常勤講師 総合病院等 9 年、訪問看護ｽﾃｰｼｮﾝ 1 年	山下 敦子　保健師･大学講師 保健センター4 年､地域包括など 9 年		

回	内　容	方法	講師
1	小児看護の特徴と理念　小児看護の目ざすところ (1)小児看護の対象　(2)小児看護の目標と役割 小児と家族の諸統計 (1)わが国の人口構造　(2)小児の死亡　(3)出生と家族	講義	茂木
2	小児看護の変遷　小児看護における倫理	講義	茂木
3	小児看護の課題 (1)疾病構造の変化と小児看護　(2)社会の変化と小児看護 (3)小児看護の専門分化	講義	茂木
4	小児と家族を取り巻く社会 (1)子どもにとっての家族とは　(2)現代家族の特徴　(3)児童福祉	講義	茂木
5	小児と家族を取り巻く社会 (1)母子保健　(2)医療費の支援　(3)予防接種　(4)学校保健安全 (5)特別支援教育　(6)臓器移植法	講義	茂木
6	ガイダンス、赤ちゃんの発達について	講義	山下
7	成長、発達について	講義	山下
8	成長、発達について　　発達検査等について	講義	山下
9	新生児について（呼吸･循環･ビリルビン代謝 他）	講義	山下
10	新生児について（成熟度･消化器･神経系･生活（看護））	講義	山下
11	乳児・幼児期（生理的機能･運動器の発達･言語機能の発達）	講義	山下
12	乳児・幼児期（授乳･離乳食等）	講義	山下
13	幼児期・学童期	講義	山下
14	学童期・思春期	講義	山下
15	思春期・青年期	講義	山下

テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布
評価方法	筆記試験（茂木 40 点、山下 60 点　合計 100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	【茂木】テキストを中心に自学自習に励むこと。 【山下】教科書を熟読し、予習・復習に努め、理解を深めてください。

専門分野	科　目	小児の生活を支える看護Ⅰ	単位数 時間	1単位 30時間
単元名	健康障害			
授業目標	健康障害のある小児の疾患・治療の特徴を理解し、看護に必要な知識を学ぶ			
時期/時間	2年次前期/30時間			
担当講師 実務経験	鈴木 順造　医師　総合病院(小児科)等50年 弓削田 英知　医師　総合病院(小児科)等42年 竹内 真弓　医師　総合病院(小児科)等13年、診療所(小児科)30年 氏家 二郎　医師　総合病院(小児科)等42年			
回	内　容		方法	講師
1	代謝異常　糖代謝異常		講義	鈴木
2	内分泌		講義	鈴木
3	アレルギー　膠原病　免疫不全		講義	鈴木
4	呼吸器疾患		講義	鈴木
5	循環器疾患		講義	鈴木
6	血液疾患		講義	鈴木
7	悪性腫瘍疾患		講義	鈴木
8	ウイルス感染症		講義	弓削田
9	細菌・その他感染症		講義	弓削田
10	腎・尿路疾患（1）		講義	弓削田
11	腎・尿路疾患（2）		講義	弓削田
12	先天異常と看護		講義	竹内
13	新生児の看護		講義	竹内
14	先天性代謝異常　内分泌疾患		講義	竹内
15	小児神経疾患		講義	氏家
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ			
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（鈴木60点、弓削田20点、竹内10点、氏家10点　合計100点満点で評価）			
履修上のアドバイス	解剖生理、専門基礎分野で学んだ各機能障害について復習しておいてください。それぞれの機能障害をもつ患児の特徴と機能障害が生活に与える影響を考え、看護の役割に結び付けてください			

専門分野	科　目	小児の生活を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1単位 30時間
単元名	小児看護技術			
授業目標	健康障害と共に生きる子どもとその家族への支援について学び、事例展開ができるようになる。また、小児看護に必要な基本的な看護技術も身につける。 障がいのある子どもと家族の特徴や看護について理解する。 健康障害をもつ子どもとその家族に対して紙上で看護過程を展開し、看護を行う時の考え方･手順を理解する。			
時期/時間	2年次前期･後期/20時間	2年次前期･後期/10時間		
担当講師 実務経験	髙城 久充子　看護師 専任教員6年 総合病院(乳腺･消化器外科、手術室)6年	安斎 佑喜　看護師 病院3年、総合病院(小児科)8年		

回	内　容	方法	講師
1	検査・処置を受ける子どもの看護①	講義	髙城
2	検査・処置を受ける子どもの看護②	講義	髙城
3	障がいのある子どもと家族の看護	講義	髙城
4	子どもの虐待と看護/事故・外傷と看護	講義	髙城
5	子どものアセスメント　事例展開①	講義	髙城
6	子どものアセスメント　事例展開②	講義	髙城
7	小児看護技術①　演習	演習	髙城
8	小児看護技術②　演習	演習	髙城
9	小児看護技術③　演習	演習	髙城
10	小児看護技術・まとめ	講義	髙城
11	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	講義	安斎
12	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 入院中・外来・在宅療養・災害時の子どもと家族の看護	講義	安斎
13	子どもにおける疾病の経過と看護 慢性期・急性期・周手術期・終末期	講義	安斎
14	症状を示す子どもの看護	講義	安斎
15	小児看護における看護過程の展開：紙上事例を通して （気管支喘息、肺炎、ネフローゼ、白血病など）	講義 演習	安斎

テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座 小児臨床看護各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	新訂版 写真でわかる小児看護技術 アドバンス 国民衛生の動向 適宜関係図書紹介
評価方法	髙城60点　試験・レポートで評価する。 安斎40点　　合計100点満点で評価
履修上の アドバイス	病児とその家族への基本項目と課題について共に考えていきたいと思います。

専門分野	科　目	母性看護学概論	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名	概　論	時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	後藤 香織　　助産師 専任教員 6 年、病院(産婦人科)5 年、診療所(婦人科)1 年			
授業目標	1. 母性看護の基盤となる概念を理解する 2. 母性看護の対象とその対象を取り巻く社会の変遷と現状について理解する 3. 女性のライフステージに伴う健康問題と看護の必要性を理解する			

回	内　　容	方法
1	母性とは 親になること	講義
2	セクシュアリティ リプロダクティブヘルス/ライツ	講義
3	母性看護の歴史的変遷 母性看護に関する法律と制度	講義 GW
4	母子保健に関する統計	講義 GW
5	リプロダクティブヘルスケア 女性のライフステージ各期の健康問題と看護（思春期・成人期）	講義
6	リプロダクティブヘルスケア 女性のライフステージ各期の健康問題と看護（成人期）	講義
7	リプロダクティブヘルスケア 女性のライフステージ各期の健康問題と看護（更年期・老年期）	講義
7.5	生命倫理　母性看護とは（45 分）	講義 GW

テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	国民衛生の動向
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	ワークシートを使用するので重要事項を記入する。 教科書で調べた場所は、マーカーや付箋を活用する。 グループワークでは、活発に意見交換をする。

専門分野	科　目	母性の生活を支える看護Ⅰ		単位数 時間	1単位 30時間
単元名	妊娠期				
授業目標	妊娠の成立など生殖に関する健康問題を理解する 妊娠期の正常な経過を理解する 妊娠週数に応じた母体と胎児の変化を理解する 妊娠期に必要な看護を理解し、看護実践能力を養う 妊娠期の異常と必要な看護を理解する				
時期/時間	2年次前期/10時間			2年次前期/20時間	
担当講師 実務経験	呉竹 昭治　　医師 総合病院(産婦人科)8年、診療所(産婦人科)27年 大和田 真人　　医師 総合病院(産婦人科)19年、病院(産婦人科)13年			後藤 香織　　助産師 専任教員6年 病院(産婦人科)5年、診療所(婦人科)1年	
回	内　容	方法	講師	内　容	方法
1	不妊治療と排卵 妊娠のしくみ	講義	呉竹	妊娠期とは	講義
2	不妊治療	講義	呉竹	妊娠初期の妊婦健診	講義
3	正常な妊娠経過	講義	大和田	妊娠中期の妊婦健診	講義
4	妊娠の異常①	講義	大和田	妊娠後期の妊婦健診	講義
5	妊娠の異常②	講義	大和田	妊娠期に行う検査とその目的	講義
6				胎児の健康状態の診断	講義
7				妊娠期の日常生活	講義・GW
8				妊娠期の保健指導	講義・GW
9				親になるための準備教育	講義・GW
10				妊娠期の看護とは	講義
テキスト	系統看護学講座 母性臨床看護学各論（医学書院）※eテキスト				
参考文献 参考書等	適宜関係図書紹介 配布資料				
評価方法	筆記試験（呉竹20点、大和田20点、後藤60点　合計100点満点で評価）				
履修上の アドバイス	講義はワークシートを配布します。講義内で述べる内容を記入すること。				

専門分野	科　目	母性の生活を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 15 時間
単元名	分娩期			
授業目標	分娩の正常な経過を理解する 分娩の経過に伴う母体と胎児の変化を理解する 分娩経過に伴う母子とその家族への看護を理解し、看護実践能力を養う 分娩期の異常と必要な看護を理解する			
時期/時間	2 年次前期･後期/6 時間		2 年次前期･後期/9 時間	
担当講師 実務経験	大和田 真人　　医師 総合病院(産婦人科)19 年 病院(産婦人科)13 年		後藤 香織　　助産師 専任教員 6 年 病院(産婦人科)5 年、診療所(婦人科)1 年	
回	内　容	方法	内　容	方法
1	分娩の生理（1）	講義	分娩期とは	講義
2	分娩の生理（2）	講義	分娩第 1 期の看護	講義
3	分娩の異常	講義	分娩第 2 期の看護	講義
4			分娩第 3・4 期の看護	講義
4.5			異常のある産婦の看護（45 分）	講義
テキスト	系統看護学講座 母性臨床看護学各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ			
参考文献 参考書等	適宣関係図書紹介 配布資料			
評価方法	筆記試験（大和田 30 点、後藤 70 点　合計 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	【大和田】 講義をよく聞き、重要事項を記録すること。配布資料をみて復習をすること。 【後藤】 講義は配布するワークシートを中心に進めますので、講義内で述べる内容をしっかり記入してください。			

専門分野	科　目	母性の生活を支える看護Ⅲ	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名	産褥期･新生児期			
授業目標	産褥期の正常な経過を理解する 新生児の生理的変化や特徴を理解する 産褥期・新生児期に必要な援助を理解する 産褥期・新生児期の異常と必要な援助を理解する 愛着形成の確立、親役割の獲得を促す看護を理解する			
時期/時間	2 年次後期/2 時間		2 年次後期/28 時間	
担当講師 実務経験	大和田 真人　　医師 総合病院(産婦人科)19 年､病院(産婦人科)13 年		後藤 香織　　助産師 専任教員 6 年 病院(産婦人科)5 年､診療所(婦人科)1 年	
回	内　容	方法	内　容	方法
1	新生児の生理	講義	産褥期の経日的変化と看護（１）	講義
2	正常な産褥経過	講義	産褥期の経日的変化と看護（２）	講義
3	新生児の特徴と生理的変化・異常	講義	産褥期の経日的変化と看護（３）	講義
4			産褥期の異常と看護	講義
5			新生児の生理的変化と看護（１）	講義
6			新生児の生理的変化と看護（２）	講義
7			新生児の生理的変化と看護（３）	講義
8			新生児の異常と看護	講義
9			母性看護の実践	講義
10			母性看護の実践	講義
11			保健指導	GW
12			保健指導	GW
テキスト	系統看護学講座 母性臨床看護学各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ			
参考文献 参考書等	適宣関係図書紹介 配布資料			
評価方法	筆記試験（大和田 30 点、後藤 70 点　合計 100 点満点で評価）			
履修上の アドバイス	【大和田】 配布資料を中心に進めますので、重要事項をしっかり記録してください。 【後藤】 講義は配布するワークシートを中心に進めますので､講義内で述べる内容をしっかり記入してください。			

専門分野	科　目	精神看護学概論	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	概　論	時期	1 年次 前期･後期
担当講師 実務経験	齋藤 有美　看護師 総合病院 7 年、病院(精神科)8 年			
授業目標	看護における精神看護の意義・目的・対象・役割機能を理解し、精神の危機的状況や精神を障がいされた個人と、その家族への援助を考えるのに必要な基礎的知識を学ぶ。			

回	内　　容	方法
1	精神概論とは　　自己紹介	講義
2	精神看護の目的と意義　「心のケア」と現代社会	講義
3	人間関係と心のはたらき　グループワーク	講義
4	人間関係と心のはたらき　精神看護の対策と理解	講義
5	人間関係と集団について　統合失調症と気分障害	講義
6	人間関係について　グループワーク	講義
7	人間の心のはたらき（意識・認知・感情）	講義
8	人間の心のはたらき（感情・学習と行動・知能）	講義
9	ストレスと心の危機	講義
10	さまざまな精神症状と特徴	講義
11	精神看護の歴史	講義
12	精神保健と法制度	講義
13	精神障害と治療の歴史	講義
14	ケアの前提と原則と方法	講義
15	授業のまとめと振り返り	講義

テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜図書紹介 資料配布
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストを中心に自己学習をして臨んでください。

専門分野	科　目	精神に障がいのある人の生活を支える看護Ⅰ	単位数 時間	1単位 30時間
単元名	精神障害			
時期/時間	2年次前期/15時間		2年次前期/15時間	
担当講師 実務経験	星野 仁彦　医師　大学教授 総合病院(精神科)〇年病院(精神科)〇年		八巻 高教　看護師 病院(精神科)等12年	
授業目標	精神科的疾患とその治療について理解を深め、精神に障がいのある人に対し、寄り添う看護ができる素地を養う		精神に障がいのある対象とその家族について理解を深める。 治療的対人関係構築のための基本的技術が理解できる。 精神科治療と看護の役割が説明できる。	
回	内　容	方法	内　容	方法
1	精神医学の総論 専門用語について	講義	ケアの人間関係（自分を知り、相手を知る。ケアの原則方法	講義
2			アセスメント、感情体験、関わり困難な事例、チームダイナミックス	講義
3	統合失調症・気分障害 その他の不安障害について	講義	入院治療の意味 精神科を受診する	講義
4	認知症･その他の器質性精神障害について	講義	入院を含む治療の原則 入院形態、法、自己決定権	講義
5	精神科における治療・患者医師関係と看護 薬物治療の基本、神経終末の構造	講義	精神科病棟の特徴	講義
6	精神科における治療 抗精神病薬・抗うつ薬	講義	入院中の観察とアセスメント 事例	講義
7	その他の薬物治療　ECT･TMS 精神療法(認知･行動療法･家族療法･SST)（45分）	講義	退院に向けての支援 多職種連携	講義
7.5		講義	まとめ（45分）	講義
テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎（医学書院）※eテキスト 系統看護学講座 精神看護の展開（医学書院）※eテキスト			
参考文献 参考書等	適宜図書紹介 資料配布			
評価方法	筆記試験（各講師50点　合計100点満点で評価）			
履修上のアドバイス	【星野】 1）特殊な専門用語を理解し、それをもとに記述される精神疾患を学びましょう。 2）内容が多いですが、一つひとつ各日におさえていくようにしましょう。 【八巻】 予習復習をしっかりしてください。			

専門分野	科　目	精神に障がいのある人を支える看護Ⅱ	単位数 時間	1 単位 30 時間
	単元名	精神看護	時期	2 年次 前期･後期
担当講師 実務経験	高橋 尚平　看護師 病院(外科･消化器科･精神科)13 年			
授業目標	精神に障がいのある対象の回復過程におけるリハビリテーションの現状と、ノーマライゼーションの理念に沿って社会復帰や自立にむけた援助を理解する。			

回	内　　容	方法
1	回復（リカバリー）を支援する　　治療と回復 リハビリテーションからリカバリーへ	講義
2	治療の場におけるリカバリー　　事例を通して	講義
3	リカバリーを促す環境	講義
4	リカバリーを促す方法	講義
5	リカバリーのプロセス	講義
6	地域におけるケアと支援方法	講義
7	地域生活を支える　システムと社会資源	講義
8	地域におけるケアの方法と実際　アウトリーチと多職種連携	講義
9	学校におけるメンタルヘルス　職場におけるメンタルヘルス	講義
10	地域における看護ケアの実際	講義
11	治療に伴う身体のケア	講義
12	精神科における人権と治療のバランスの上に立つ安全について	講義
13	緊急事態に対処する	講義
14	医療現場におけるメンタルヘルスと看護	講義
15	リエゾンナースの援助の実際	講義

テキスト	系統看護学講座 精神看護の展開（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜図書紹介 資料配布
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストを中心に自己学習して臨んでください。

専門分野	科　目	健康回復支援論	時間	2 単位 45 時間
	単元名		時期	1 年次 後期
担当講師 実務経験	高城 久充子　看護師 専任教員 6 年・総合病院(乳腺･消化器外科、手術室など)6 年			
授業目標	あらゆる健康レベルにある対象の身体的・心理的・社会的側面を捉え、対象に現れている症状や病態を理解する 事例を通して対象に必要な看護援助を考え、根拠を元に実践する知識や技術を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ	講義
2	健康状態と看護　慢性期の看護　成人期	講義
3	健康状態と看護　急性期の看護①　成人期	講義
4	健康状態と看護　急性期の看護②　成人期	講義
5	健康状態と看護　回復期の看護①　成人期	講義
6	健康状態と看護　回復期の看護②　成人期	講義
7	演習準備　オリエンテーション・事例の検討	講義
8	演習計画　グループワーク	演習・GW
9	看護実践に向けた演習 1-①	演習
10	看護実践に向けた演習 1-②	演習
11	看護実践に向けた演習 2-①	演習
12	看護実践に向けた演習 2-②	演習
13	老年期の対象への看護実践①　事例	講義・GW
14	老年期の対象への看護実践②　演習	演習
15	小児期の対象への看護実践①　事例	講義・GW
16	小児期の対象への看護実践②　演習	演習
17	母性の対象への看護実践　事例	講義・GW
18	母性の対象への看護実践　演習	演習
19	精神の対象への看護実践　事例	講義・GW
20	精神の対象への看護実践　演習	演習
21	地域・在宅の対象への看護実践　事例	講義・GW
22	地域・在宅の対象への看護実践　演習	演習
22.5	地域・在宅の対象への看護実践　まとめ（45 分）	講義

テキスト	系統看護学講座　臨床看護学総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　基礎看護技術 I （医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　老年看護学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　小児看護学概論　小児看護学総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　小児臨床看護各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　母性看護学概論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　母性看護学各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　精神看護の基礎（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　精神看護の展開（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　地域・在宅看護の基盤（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 系統看護学講座　地域・在宅看護の実践（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜資料を配布
評価方法	筆記試験・レポート課題（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	テキストを読み、予習をして講義に臨む。レポート課題も評価対象となる。

専門分野	科　目	看護展開	時間	1単位30時間
	単元名		時期	1年次 前期･後期
担当講師 実務経験	佐藤 香　看護師 専任教員4年　総合病院(NCU､外科･ICU､消化器科など)21年			
授業目標	対象に看護を提供するために健康問題を系統的に解決する方法を学ぶ。 事例を通して看護過程を展開することで対象に対する興味関心を深め、個別性のある看護の必要性を確認する。			

回	内　　容	方法
1	看護過程の意義と目的　看護過程の構成要素	講義
2	看護過程に必要な能力　問題解決過程、看護理論との関連	講義・G.W
3	情報収集とアセスメント①　情報収集の方法とアセスメントの種類	講義・演習
4	情報収集とアセスメント②　情報の整理と分類（アセスメントの枠組み）	講義・事例演習
5	情報収集とアセスメント③　欲求の充足、未充足の判断	講義・事例演習
6	情報収集とアセスメント④　関連図の作成（全体像の把握）	講義・事例演習
7	問題の明確化①　～関連図の作成から	講義・事例演習
8	問題の明確化②　看護診断、問題リストの作成(問題の記述方法と優先順位)	講義・事例演習
9	問題の明確化③　成果・指標の設定	講義・事例演習
10	看護計画の立案①　標準看護計画、初期計画	講義・事例演習
11	看護計画の立案②　個別性のある計画へ	講義・事例演習
12	実施の流れと経過記録	講義・事例演習
13	評価の方法と計画の追加・修正	講義・事例演習
14	看護要約の記入	講義・事例演習
15	看護記録の記載と管理　リフレクション・まとめ	講義・G.W

テキスト	系統的看護学講座 基礎看護技術Ⅱ（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	・緊急度・重症度からみた　症状別看護過程＋病態関連図（医学書院） ・看護が見えるVol.4　看護過程の展開（メディックメディア） ・ヘンダーソン･ゴードンの考え方に基づく実践看護アセスメント（ヌーヴェルヒロカワ）
評価方法	筆記試験　80点　事例演習の記録・レポート20点（100点満点）
履修上のアドバイス	看護過程の展開は実習、臨床での看護に直結するものです。対象によりよい看護を提供できるようにその基礎となる部分を事例を通して学んでいきましょう。

専門分野	科　目	健康支援論	時間	1単位30時間
	単元名		時期	2年次 前期
担当講師 実務経験	渡邊 留美　保健師・看護師 専任教員1年・病院(特殊疾患病棟･急性期病棟)17年			
授業目標	①人間一人ひとりの「生活」を理解することを土台に、「社会的な健康」と科学的に捉えた「健康行動」について理解する。 ②人が人々と暮らす「家族」や「集団」、「組織」について社会科学的な観点から学び、さらに「地域社会」や「グローバルな社会」とは何かの基本を理解する。 ③地域で生活する人が自ら健康行動を実践できるための支援を考える。 ④病気や障害を持ちながら生活する人を支援するための基礎的知識を習得する。			

回	内　　容	方法
1	生活・社会と看護の関わり、予防活動	講義
2	個人の生活の理解、家族のあり方、健康とは何か	講義・GW
3	地域社会とグローバリゼーション	講義・GW
4	科学からとらえた健康行動と保健行動モデル	講義・GW
5	健康の維持・増進を目指すための看護	講義・GW
6	ライフスタイル、ライフサイクルに応じた健康支援	講義・演習
7	成人期における健康問題の把握と支援①　自ら行動変容するための支援	講義・演習
8	成人期における健康問題の把握と支援②　ストーマの自己管理指導	講義・演習
9	成人期における健康問題の把握と支援③　ストーマの自己管理指導	講義・演習
10	成人期における健康問題の把握と支援④　ストーマの自己管理指導	講義・演習
11	指導案の発表	講義・演習
12	老年期における健康維持のための支援①　自宅での血糖測定指導	講義・演習
13	老年期における健康維持のための支援②　自宅での血糖測定指導	講義・演習
14	老年期における健康維持のための支援③　自宅での血糖測定指導	講義・演習
15	指導案の発表	講義・演習

テキスト	ナーシング・グラフィカ　健康支援と社会保障①
参考文献 参考書等	適宜資料を配布
評価方法	提出課題・演習成果物
履修上の アドバイス	地域で生活する人を理解し、人々が健康の保持・増進、健康への関心を高め実際に自ら健康行動を実践できる支援技術、また、病気を持ったまま生活を営む人の支援技術の基礎的知識を学びましょう。

専門分野	科　目	薬物療法と看護	時間	1単位30時間
	単元名		時期	2年次 前期
担当講師 実務経験	佐藤 知子　看護師 専任教員23年 病院(消化器外科、内科、小児科など)9年			
授業目標	専門基礎分野の治療論Ⅱで薬剤の種類と作用機序を学び、病気とからだで症状や疾患に用いられる一般的な薬物療法を学ぶ。 それらの知識を基に取り扱う薬剤の主な効果や副作用とその徴候を理解しておくことで、副作用の早期発見、早期対応の援助につなげる。本科目では、これらの知識を統合し、治療に用いられる主な薬剤の効果・作用を把握し、薬物療法を受ける対象の薬剤効果に対する反応を観察し、アセスメントできる基本的知識を身につける。			

回	内　　容	方法
1 2	薬物治療の実際 ・薬物治療において看護師が特に確認すべき項目	講義・GW
3 4	薬物治療の評価 ・服薬状況の確認	講義
5 6	薬剤の安全管理 ・病院内でおこりやすい医薬品におけるインシデント ・外来・在宅での医薬品の安全管理	講義・GW
7 8 9 10 11 12	薬剤の投与と調整（演習） ・点滴持続中 ・栄養及び水分管理	演習
13 14 15	服薬指導	演習

テキスト	系統看護学講座 臨床薬理学（医学書院）※eﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜資料を配布
評価方法	筆記試験（100点満点で評価）
履修上の アドバイス	医師による薬剤投与の指示を受け、薬名・分量・用法を確実に確認し、対象の服薬状況を把握し、安全管理を実践しながら正確な服薬を投与する基礎的知識を身につける。それに留まらず、さらなる臨床での実践に向け、薬物療法における対象の状態を判断し、対象が適切に薬物管理を行なえるよう支援するためのスキル向上に努め、薬剤量の調節や、対象が服薬可能な剤形の変更を提案できる能力を身につける。

専門分野	科　目	周手術期と看護	時間	1単位30時間
	単元名		時期	2年次 前期･後期
担当講師 実務経験	原 恵理子　看護師 専任教員7年・総合病院(ICU､外科､消化器･循環器科など)22年			
授業目標	1）周手術期における、患者の身体的変化や心理的変化、社会的変化を理解できる 2）手術による身体への侵襲と、それに対する生体反応について理解する 3）周手術期において根拠に基づいた看護実践を理解し学ぶ 4）医療ニーズの変化や一人ひとりの健康認識の変化に応じるために、退院支援部門との連携の重要性を理解できる			

回	内　容	方法
1	周手術期看護の概要と看護師の役割：周手術期看護とは　周手術期医療における倫理 チーム医療　　周術期の安全管理	講義
2	周手術期にある患者と家族の特徴：周術期の身体的・心理的・社会的特徴 周術期の家族の心理状態の変化と家族の役割	講義
3	手術侵襲と生体反応：麻酔による影響、侵襲の種類、 生体反応と回復過程(ムーアの分類)、術後合併症	講義
4	麻酔の種類と術前・中・後の管理、合併症	講義
5	手術前の患者の看護① 外来～入院まで：外来看護の重要性、意思決定支援、患者指導、他部門との連携 入院～手術当日：手術前日・当日の患者準備、手術室との連携	講義
6	手術前の患者の看護②手術や麻酔に伴うリスクアセスメント （術中・術後どのような問題が生じるのか術中・術後合併症が 起こる可能性、合併症を起こさないための術前の看護）	講義
7	手術中の患者の看護：手術中の看護の要点、看護師の役割 （入室前～入室時～麻酔導入時、手術終了時）	講義
8	手術後の患者の看護①：術後の経過（身体的・心理・社会的変化）と アセスメントの視点、輸液・ドレーン管理、術後疼痛管理	講義
9	手術後の患者の看護②：時間経過別の看護援助	講義
10	重症集中治療を受ける患者の看護	講義
11	事例：術直後の患者の全体像＝全身状態の観察 アセスメント（情報の統合：病態の関連と看護問題の抽出)、援助を考える	演習 GW
12	事例：術後1～2日目の患者の看護＝全身状態の観察 アセスメント（情報の統合：病態の関連と看護問題の抽出)、援助を考える	演習 GW
13	高齢者と手術	講義
14	小児とその家族と手術	講義
15	帝王切開を受ける産婦の看護	講義

テキスト	系統看護学講座 臨床外科看護総論、臨床看護総論、成人看護学総論、老年看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論、母性看護学各論、（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	系統看護学講座 臨床外科看護各論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ 急性期看護Ⅰ概論・周手術期看護　南江堂
評価方法	筆記試験（課題、授業への参加状況を加味する　100点満点で評価）
履修上のアドバイス	患者は麻酔と手術を受けることにストレスを感じ、不安や恐怖を抱くことが推測されます。このような患者は心身共に支えられ、元の生活に戻ることができるような援助を必要としています。疾病論・成人の生活を支える看護等で学んだことを想起しながら授業・演習に臨み実習につなげましょう。

専門分野	科　目	終末期と看護	時間	1単位30時間
	単元名		時期	2年次 前期･後期
担当講師 実務経験	鴫原 りつ子　看護師 専任教員17年・総合病院(内科・外科・小児科・産婦人科・眼科)22年			
授業目標	死を迎える対象と家族の特徴を理解し、人生最期の時をその人らしく過ごすことができるための看護師の役割と援助を学ぶ			

回	内　　容	方法
1	終末期医療・緩和ケアの理念を理解と日本の終末期医療の現状	講義
2	終末期医療における看護師の役割とチーム医療の役割	講義
3	終末期における危機的状況の特徴と患者・家族を理解するための視点	講義
4	終末期の倫理的課題	講義
5	緩和ケアに必要なコミュニケーションと意思決定支援(ACP - もしバナゲームを用いてACPについて実際に考える)	講義・演習
6	患者の意思決定支援を考える：事例から患者・家族のニードの把握と医療者の役割について考える	講義・演習 (動画・GW)
7	緩和ケア：身体的ケア・がん性疼痛の緩和ケア、付随する症状の緩和ケア	講義
8	緩和ケア：精神的ケア・スピリチュアルケア	講義
9	緩和ケア：社会的ケアと家族へのケア	講義
10	緩和ケアの対象の広がり：非がん性疾患患者のエンドオブライフケア - 成人期の死の捉え方	講義
11	緩和ケアの対象の広がり：非がん性疾患患者のエンドオブライフケア - 子どもと家族の死の捉え方、高齢者の死の捉え方	講義
12	看取りの看護：グリーフケア - 家族の心理とケア、看護師の心理とケア	講義
13	看取りの看護：在宅における看取りの看護－自宅で死を迎えることの意味	講義
14	看取りの看護：臨終期の対応とエンゼルケア	講義・動画
15	終末期看護の看護師の役割：がん専門看護師の活動から考えてみる	講義・動画

テキスト	系統看護学講座 緩和ケア（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	系統看護学講座 臨床看護総論、系統看護学講座　老年看護学 系統看護学講座 成人看護学総論、系統看護学講座 地域・在宅の基盤、 系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
評価方法	授業への参加状況（出席時間数要件2/3以上（20時間以上））、 筆記試験（80点）＋課題レポート（20点）　合計100点満点で評価する
履修上の アドバイス	死を迎える対象とその家族について多面的に理解を深めましょう。 また、同時に死生観も深めるきっかけ作りになると思いますので、自己研鑽に役立ててください。

専門分野	科　目	看護管理	単位数 時間	1 単位 30 時間
単元名				
時期/時間	3 年次前期/12 時間		3 年次前期/18 時間	
担当講師 実務経験	大戸 和子　看護師 専任教員 28 年、総合病院(脳神経外科、 整形外科､救急外来など)11 年		鈴木 佳子　看護師 総合病院 41 年	
授業目標	看護を「しくみ」として理解し、それがどのようになっているのか、問題は何か、どのように改善策はあるか、どのようにすればより良い看護が提供できるかチーム医療及び多職種との協働の中で組織の一員としの管理方法と、施設内や地域における看護のマネジメントの方法と必要性がわかる			

回	内　容	方法	講師
1	看護管理学とは ・看護管理の定義、概念構成、基本的要素 ・看護とマネジメント　場と考え方	講義・GW	大戸
2	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ・患者の権利の尊重　　・安全管理と医療事故対策 ・院内感染対策　　・災害の予防と対応 ・チーム医療	GW・講義	大戸
3			
4	理想の看護管理体制計画 (理想の職場環境を地域の特性も踏まえ考える)	GW・講義	大戸
5	理想の看護管理体制計画 (理想の職場環境を地域の特性も踏まえ考える)	GW・講義	大戸
6	看護管理の展望　発表	GW・発表	大戸
7	看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供の仕組みづくり	講義	鈴木
8	看護サービスのマネジメント、組織目的達成のマネジメント 看護サービス提供の仕組みづくり	講義	鈴木
9	人材マネジメント	講義	鈴木
10	人材マネジメント、労働環境	講義	鈴木
11	施設･設備環境マネジメント、物品のマネジメント 情報のマネジメント、リスクマネジメント	講義	鈴木
12	マネジメントとは、組織とマネジメント リーダーシップとマネジメント、組織の調整	講義	鈴木
13	看護の定義、看護職、医療制度、看護政策と制度	講義	鈴木
14	キャリアとキャリア形成、看護職のキャリア形成 専門職としての成長、タイムマネジメント	講義	鈴木
15	ストレスマネジメント	講義	鈴木

テキスト	系統看護学講座 看護管理 (医学書院) ※e ﾃｷｽﾄ
参考文献	看護管理学改訂第 2 版 自立し協働する専門職の看護マネージメントスキル(南江堂) 看護学基礎テキスト全 4 巻(日本看護協会出版)
評価方法	筆記試験 (大戸 40 点、鈴木 60 点　合計 100 点満点で評価)
履修上の アドバイス	看護の質の向上には欠かせなく、看護師の業務にとっては重要なものである。 指定した 教科書の内容は必ず事前に読んでおくと理解は得やすい。

専門分野	科　目	国際看護	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	2 年次 後期
担当講師 実務経験	①渡邉 一代　大学准教授・助産師　大学 24 年、総合病院(産婦人科など)21 年 ②国際協力機構（JICA）二本松青年海外協力隊訓練所 講師			
授業目標	国際看護および国際保健に関わる国際機関の役割と機能、社会的・経済的な諸問題に焦点をあて、その多様性を学ぶ。グローバルな環境課題や問題が及ぼす人々の健康への影響と国際看護の役割と支援方法を学ぶ。グループワークにより実際の健康問題や環境問題等について学ぶ。 ① 国際的視点から捉えた健康課題と国際機関の役割と機能について説明できる ② 世界の各地域における看護の在り様や実践、及び具体的な国際保健や看護の取り組みと課題について説明できる ③ 国際社会が共同して取り組む国際保健医療協力の仕組みについて説明できる ④ 国際保健医療看護の実践に必要な情報収方法を説明できる			

回	内　　容	方法	講師
1	授業オリエンテーション 国際看護学に関連する基礎知識 国際看護学の定義、国際協力・国際保健とは、開発と国際救援のあり方	講義	渡邉
2	世界の健康問題の現状 世界の健康・保健問題へのアプローチ グループ毎に関心あるテーマを決め自分たちが看護職としての関与を考える	講義 GW	渡邉
3	世界の健康・保健問題へのアプローチ グループ毎に関心あるテーマについて情報収集し、プレゼンテーション準備をする	講義 GW	渡邉
4	世界の健康・保健問題へのアプローチ　　グループ毎にプレゼンテーション	講義	渡邉
5	本授業の学びと今後の課題を振り返る	GW	
6	国際協力機構（JICA）二本松青年海外協力隊訓練所見学視察	見学	渡邉
7		実習	JICA
7.5		GW	

テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	授業内で適宜、資料を配布
評価方法	【渡邉】課題ﾚﾎﾟｰﾄ 50%　課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 30%　授業への参加態度 10%　90 点 【JICA】10 点　　合計 100 点満点で評価
履修上の アドバイス	

専門分野	科　目	医療安全	単位数 時間	1単位 30時間
単元名				
時期/時間	3年次前期･後期/15時間		3年次前期/15時間	
担当講師 実務経験	佐藤 香　看護師 専任教員4年 総合病院(NCU､外科･ICU､消化器科など)21年		奈良輪 弘美　看護師 日本DMAT隊員赤十字救急法救急員 総合病院(循環器･内科科、救急など)27年	
授業目標	1.患者に存在する危険を認識する能力をもつ重要性を理解し､「してはならないこと」と「するべきこと」､またその根拠・理由も含めて医療安全の観点を学ぶ 2.看護事故の構造分類から事故防止の考え方、事故の発生要因とその防止について学ぶ			

回	内　容	方法	講師
1	医療事故と看護業務 ・医療安全を学ぶことの意義　　・医療安全推進の背景と経緯 ・看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務　・医療安全の基礎知識	講義 GW	佐藤
2	医療事故防止の考え方 ・事故の原因分析と対策の検討　・現場における対策の検討と注意点 ・分析、検討後に必要な実施策	講義	佐藤
3	学生が、実習において体験したヒヤリ・ハットについて意見交換し、医療安全対策を考える	GW	佐藤
4	ＫＹＴ危険予知訓練の実施要件と実施　自身の傾向	講義 GW	佐藤
5	インシデントＫＹＴ	GW	佐藤
6	ヒヤリ・ハット劇場作成	GW	佐藤
7	ヒヤリ・ハット劇場発表	GW	佐藤
7.5	組織的な安全管理体制への取り組み 医療安全とコミュニケーション 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務（45分）	講義	佐藤
1	医療安全施策の契機となった医療事故	講義	齋藤
2	看護事故の構造　医療事故の定義と分類 ヒューマンエラー防止対策	講義	齋藤
3	医療事故防止対策の実際　　ヒヤリハットアクシデント報告	講義	齋藤
4	医療安全とコミュニケーション　　医療安全と看護倫理	講義	齋藤
5	事例分析の目的と手法　　グループワーク（看護要因関連図）	講義	齋藤
6	医療安全上の安全衛生	講義	齋藤
7	医療安全に対する国の取り組み 医療安全に関する看護職の法的責任	講義	齋藤
7.5	医療安全確保のための組織管理体制 医療事故・紛争発生時の対応　　新人が起こしやすいエラー（45分）	講義	齋藤

テキスト	系統看護学講座 医療安全（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献	医療安全ワークブック(医学書院)川村治子 医療安全に生かすＫＹＴ(メヂカルフレンド社)浜藤好美
評価方法	筆記試験（各講師50点、合計100点満点で評価する）
履修上のアドバイス	看護の実践において常に危険が伴うことを認識し、安全意識の向上と事故防止の視点を意識して学びこれからの臨床場面に繋げてほしい。

専門分野	科　目	災害看護	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	3 年次 後期
担当講師 実務経験	武田 里美　看護師 総合病院(呼吸器外科・外科・心臓血管外科・循環器科など)25 年		岩崎 睦子　看護師 総合病院(脳外科・外科・整形外科・内科・手術室など)31 年	
授業目標	①災害の基礎的知識・技術・態度を習得する ②救護活動を理解する ③こころのケアについて理解する ④災害時における看護師の役割を理解する			

回	内　　容	方法	講師
1	災害の定義　　災害救護活動	講義	武田・岩崎
2	災害の種類　　CSCATTT	講義	武田・岩崎
3	災害サイクル	講義	武田・岩崎
4	災害時の医療支援 3T	講義	武田・岩崎
5	災害時　心のケア（1）	講義	武田・岩崎
6	災害時　心のケア（2）	講義	武田・岩崎
7	応急処置・搬送法（1）	講義・演習	武田・岩崎
7.5	応急処置・搬送法（2）（45 分）	講義・演習	武田・岩崎

テキスト	系統看護講座 災害看護学・国際看護学（医学書院）※e ﾃｷｽﾄ
参考文献 参考書等	適宜資料を配布
評価方法	筆記試験（100 点満点で評価）
履修上の アドバイス	自分たちの身近におきている災害、日本のみならず世界中で起きている災害、紛争、事故などに関する出来事に目を向けて自己の役割を理解してほしい。

専門分野	科　目	リフレクション	単位数 時間	1 単位 15 時間
	単元名		時期	3 年次 後期
担当講師	日下部 ひとみ　看護師 専任教員 11 年・総合病院(内科･性差医療センター等)9 年、保健指導相談員 8 年			
授業目標	3 年間の実習を振り返り、実習グループのメンバーや教員とのディスカッションを通して課題や成果を確認する。 臨床の場で求められる看護実践を安全で確実に提供できるよう、事例を通して知識・技術を習得する。			

回	内　　容	方法
1	領域実習の振り返り（グループの課題を明確にする）	講義・GW
2	事例提示　評価方法・演習方法の説明	講義
3	演習　事例①看護計画立案	演習・GW
4	演習　実施	演習
5	演習　事例②看護計画立案	演習・GW
6	演習　実施	演習
7	演習　事例③	演習
7.5	まとめ　振り返りと自己課題の明確化（45 分）	講義

テキスト	適宜資料を配布
参考文献 参考書等	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） 看護学テキスト　成人看護技術　（南江堂） これまで使用したテキストを振り返りとして使用する
評価方法	技術試験　70%　技術振り返り 30%　　合計 100 点満点で評価
履修上の アドバイス	生活を支える技術Ⅰ～Ⅵ　臨床判断強化能力Ⅰ・Ⅱを振り返って下さい。 講義・演習・実習を振り返り、身に着けた知識と技術を臨床で活かして下さい。

【 基礎看護学実習Ⅰ 】　1単位 45時間　1年次

1. 実習の目的

対象を取り巻く環境を知り、地域医療を支える病院の機能と看護師の役割を理解する

2. 実習目標

1)施設内の見学を通して、病院で働く医療専門職の存在を知り、多職種の関わりで医療が提供されていることがわかる
2)入院中の対象の環境をとらえ、環境調整の必要性とその大切さを理解する
3)対象に関心を寄せ、コミュニケーションをとることができる
4)日常生活の援助、対象との関わりから看護の役割を考えることができる
5)看護専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

	内　容	
病院見学	1日目	①病院の概要を受ける ②病院内の見学と多職種の説明
	2日目	①病棟のオリエンテーション ②病棟の看護師、先輩についてコミュニケーションの見学 ③学生カンファレンス
病院実習	初日	①病棟のオリエンテーション ②患者紹介を受け、対象に自己紹介する ③対象の療養環境を観察する ④看護師と共に行動し、話し方・接し方を見学する ⑤学生カンファレンス(療養環境について)
	2日目	①対象とのコミュニケーションと療養環境の観察 ②対象の療養環境に合わせた環境整備を実施する ③病棟の一日の流れに沿って、看護師と共に日常生活の援助を見学する ④学生カンファレンス(コミュニケーションの実際について)
	3日目 (最終日)	①対象の療養環境にあわせて、環境整備を計画し実施する ②実習の評価(学生、指導者、教員の3者評価) ③反省会(実習を通しての学びを共有)

4. 記録の記入、提出について

1)記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
2)実習課題は担当教員の添削を受け、実習初日に持参する
3)必要な記録用紙を各自持参し、なるべく実習時間内に記入する
4)実習終了後は、指定された実習記録一式をまとめ、クリアファイルに入れて提出する

5. 実習中の注意事項

1)体調管理をしっかりして実習に臨む
2)聴く態度・言葉遣いなど相手を尊重した態度をとる
3)わからないことはそのままにせず調べたり・質問したりする
4)実習グループとして協力する(5分前行動、実習場への行き帰りの挨拶)
5)対象のプライバシーを保持する
6)援助の見学・実施の際にはスタンダードプリコーションを常に意識し、必要に応じて手袋、マスク、エプロンの着用をする

6. 単位修得の認定

1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 基礎看護学実習Ⅱ 】 2単位 90時間 2年次

1. 実習の目的
看護過程を用いて、対象の全体像を捉えてそれぞれの対象にあった日常生活援助を実践する。また、医療チーム の一員であることを自覚する。

2. 実習目標
1)1 人の対象を統合的に捉え、看護上の問題を明確にできる
2)受け持ち対象に応じた日常生活の援助考え、看護計画を立案ことができる
3)安全・安楽に留意した援助方法を考え看護師と共に実践する
4)自身の行った看護援助を振り返り、個別性にあった援助を考える
5)医療チームの一員としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

日 程		内 容
事前学習		実習の課題を明確にして臨む 行動計画表(初日の計画)作成・週間計画を立てる 事前学習:ペーパーペイシェントでの看護展開、技術の練習、強化
1週目	初日	①病棟のオリエンテーションを受ける ②受け持ち患者の紹介を受け、情報収集を開始する
	2日目以降	①対象とのコミュニケーション、看護師と共に援助をしながら情報を収集する ②得られた情報から援助の必要性を見出す(アセスメント) ③対象の情報やアセスメントをその都度追加・修正する ④日常生活の援助を看護師とともに経験し、事前学習と比較して振り返る ⑤対象・家族、同室の患者とコミュニケーションを図り、自分の言動の振り返りを行う(プロセスレコード)
2週目	登校日	得られた情報から記録を整理し、計画の立案につなげる
	実習日	①1 週目同様、対象の情報を得ながら看護師と共に援助を行い、振り返りをする ②受け持ち対象の情報・アセスメントを追加し、全体像を捉える ③受け持ち対象の看護問題を抽出し、問題点に応じた援助を計画する(日々の目標・計画に反映する) ④立案した介入計画をもとに看護師と共に実践し、その内容を評価・修正する ⑤対象・家族、同室の患者とコミュニケーションを図り、自分の言動の傾向と改善点を見出す(プロセスレコード) 中間評価を受ける
3週目	登校日	援助の経過をまとめ、評価、計画の追加・修正を行う
	実習日	①受け持ち対象の看護問題に沿って、計画した援助を看護師と共に実施する ②援助の前・中・後の観察をもとに評価し、計画の追加、修正を加える ③実習を振り返り、これからの自己の課題を明確にする
	実習修了後	実習の振り返り(カンファレンス・反省会) 最終評価

4. 実習中の注意事項
1)対象のプライバシーを保護する
2)自己の健康管理には十分留意すること
3)実習グループとして協力すること

5. 記録物の提出について
1)記録類は学生氏名を明記し、クリアファイルに入れるなど管理に責任をもつ
2)登校日には実習担当教員へ提出し、随時添削・指導をもらう
3)実習終了後は、指定された実習記録一式を揃え、クリアファイルに入れて提出する

6. 単位修得の認定
1)成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
2)成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 地域・在宅での生活を支える看護実習Ⅰ 】　1単位 45時間　2年次

1. 実習の目的
社会生活を送りながら治療を継続する現状を理解し、地域社会での療養と日常生活を安心して営むことができるように、個性を尊重した生活支援を学ぶ。また、それぞれの発達段階やライフスタイルに合わせた援助や家族支援を学ぶ

2. 実習目標
1)長期にわたる治療が日常生活に及ぼす影響を理解する
2)治療に伴う患者の安全性・安楽性を守る看護援助を学ぶ
3)患者のセルフマネジメント支援にむけた援助の必要性を理解する
4)地域包括ケアシステムの視点から退院支援、退院調整における看護師の役割を理解する
5)患者の療養と生活、家族を取り巻くチーム医療や多職種連携、協働を理解する
6)障がい児を取り巻く環境や個別性を理解し、児の日常生活を理解する

3. 実習方法

日　程	内　容
事前Ⅰ	学内:①事前課題 ②実習目標の見直し ③講義資料の確認
1～3日目	病院実習 外来化学療法室、透析室、放射線治療室、外来診療室(看護外来含む)、地域連携・退院支援センターのいずれか4か所を3日間でローテーション実習する ・外来看護実践を見学する ・継続した健康管理を必要とする人々が日常生活や社会生活をどのように調整しているかを理解する(可能ならば、コミュニケーションを図り社会的背景や家庭生活の様子を聞いてみる) ・看護師がどのように患者と関りを持っているのか、継続看護の視点を学ぶ ・患者に関わる他職種は何かを調べる ・多職種カンファレンスや退院支援カンファレンスなどは見学させてもらう ・地域連携・退院支援の役割を捉える
4日目	地域包括支援センター実習 概要説明・相談業務・地域健康推進事業
5日目	大笹生支援学校実習 オリエンテーション 各教室実習(発達段階や障がいに応じた支援方法を捉える)

4. 実習中の注意事項
1)朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
2)日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
3)聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
4)決められた服装で実習に臨む
5)時間厳守
6)グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について
1)提出物は、指定された日時を厳守し担当教員まで提出する

6. 単位修得の認定
1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 地域・在宅の生活を支える看護実習Ⅱ 】　2 単位 90 時間　3 年次

1. 実習の目的

地域で生活している人々の健康の保持・増進のための活動や、地域で療養している人々とその家族の特徴を理解し、住み慣れた地域で生活が送るための支援方法を学ぶ。また在宅療養を支える社会資源や多職種の役割と連携が理解できる

2. 実習目標

1) 地域における健康の保持増進・疾病の予防に対する様々な活動に参加し、看護師および多職種の役割を理解する
2) 地域で療養するために必要な社会資源の活用と関係機関との連携を理解する
3) 地域暮らす人々を生活者として捉え、生活の中での支援の実際を理解する
4) 在宅療養における看護の役割と援助の方法を理解する
5) 地域で生活している対象の価値観や生活背景を尊重した看護を考える

3. 実習方法

日　程	内　容
事前学習	学内:①実習の目的・目標・方法を十分理解したうえで実習に臨む ②在宅看護方法論の学習内容を復習する
1 日	1. 県北保健福祉事務所・県精神保健福祉センター ①概要・役割について講義、施設内見学、GW ②実習での学びをレポート作成する
1日	2. 保健センター ◎福島市保健福祉センター(福島保健所)/伊達市保原保健センター ①概要・役割説明について講義、施設内見学、健康推進事業について GW ②実習での学びをレポート作成する
1 日	3. 居宅介護支事業所 ①概要・役割説明、相談業務(要介護者)、社会資源の実際について GW ②実習での学びをレポート作成する
7 日	4. 訪問看護ステーション ①訪問看護師とともに同行訪問し生活の場での療養に必要な援助を学ぶ ②1事例受け持ち、療養上の問題を考える ③在宅調整会議などがあれば参加する ④訪問対象についての意見交換(カンファレンス) ⑤受け持ち事例の展開やその他の訪問から、在宅看護の理解を深める ⑥反省会で、学生間の学びを共有する(最終評価)

4. 実習中の注意事項

1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
2) 実習終了時に日々の行動計画の助言をうける
3) 実習スケジュールが異なるため、必ず事前に確認する
4) 訪問者であることを意識して行動する

5. 記録提出について

1) 1～3の実習終了後、指定された記録用紙を期日までに提出する
2) 4の実習終了後、指定された記録用紙をファイルに入れてグループごとに提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
2) 成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 成人の生活を支える看護実習Ⅰ 】　2単位 90時間　3年次

1. 実習の目的
成人期の特性を踏まえ、急性期・周手術期にある対象を理解し個別性に応じた看護の実際を学ぶ

2. 実習目標
1)成人期の発達段階や急性期・周手術期の特性をふまえ、対象の状態に応じた看護の必要性と健康問題を明確にして実践につながる知識・技術を身に付ける
2)対象に起こる健康状態の急激な変化に伴う身体的反応を理解する
3)健康状態の急激な変化を受けた対象とその家族の精神的・社会的側面を捉え、看護師としての態度を身に付ける

3. 実習方法

日程	内　容
前日	事前学習　実習目標・実習初日の行動計画の立案
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける ・受け持ち対象の紹介、情報収集開始 ⇒対象の全体像を把握するために情報収集する ・現在に至る経過を治療内容と合わせて把握する ※クリティカルパス使用の対象の場合は、対象に行われる看護の必要性をその都度理解しながら進めていく
2日目以降	・情報をもとにアセスメントし対象の全体像を関連図に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせて優先順位を決定する ※クリティカルパス使用の場合はそれを参考にしてよい。ただし援助の根拠等を理解した上で援助につなげていく ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助か確認する ・対象に指導・教育的援助を行なう場合は、事前に実習指導者・教員に相談し計画に沿って実施する ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、必要時計画の修正を行う ＊受け持ち変更時は新たにこの行程を踏む
5日目	中間評価
6日目以降	・立案した計画を日々実施・評価していきながら、より対象の個別性に応じた援助の実施、問題解決へと進めていく
最終日	最終評価

4. 実習中の注意事項
1)朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
2)日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
3)聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
4)決められた服装で実習に臨み、時間を見て行動する
5)グループメンバー間で協力しながら実習に臨む

5. 提出について
1)指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
2)提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定
1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 成人の生活を支える看護実習Ⅱ 】　2 単位 90 時間　3 年次

1. 実習の目的
成人期の特性を踏まえ、慢性期・回復期・終末期にある対象を理解し個別性に応じた看護の実際を学ぶ

2. 実習目標
1)成人期の発達段階や慢性期・回復期の特性をふまえ、疾病に伴う対象の生活への影響を捉え、対象の健康問題を総合的に捉える
2)対象のセルフケア能力とサポート状況を把握し、対象に必要とされる援助を実施できる
3)疾病の回復とともに現れる対象とその家族の不安を捉え、他職種を含めた継続的支援の必要性と看護の実際について理解する
4)終末期にある対象の個別性を尊重し、全人的な関わりを学び、家族への援助ができる

3. 実習方法

日程	内　容
前日	事前学習　実習目標・実習初日の行動計画の立案
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける ・受け持ち対象の紹介、情報収集開始 ⇒対象の全体像を把握するために情報収集する ・現在に至る経過を治療内容と合わせて把握する ※クリティカルパス使用の対象の場合は、対象に行われる看護の必要性をその都度理解しながら進めていく
2 日目以降	・情報をもとにアセスメントし対象の全体像を関連図に記載する ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせて優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助か確認する ・対象に指導・教育的援助を行なう場合は、事前に実習指導者・教員に相談し計画に沿って実施する ・看護師と共に援助を行い実施したことを評価し、必要時計画の修正を行う ＊受け持ち変更時は新たにこの行程を踏む ＊他職種カンファレンス等がある場合は、積極的に参加する
5 日目	中間評価
6 日目以降	・立案した計画を日々実施・評価していきながら、より対象の個別性に応じた援助の実施、問題解決へと進めていく
最終日	最終評価

3. 実習中の注意事項
1)朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
2)日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
3)聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
4)決められた服装で実習に臨み、時間を見て行動する
5)グループメンバー間で協力しながら実習に臨む

4. 提出について
1)指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
2)提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

5. 単位修得の認定
1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 老年の生活を支える看護実習 】　2 単位 90 時間　3 年次

1. 実習目的

高齢者の加齢に伴う変化と疾病・障害について理解し、「人生の最終段階」をその人らしく過ごせるよう、高齢者を支える家族も含めた看護を学ぶ

2. 実習目標

1）老年期の加齢及び健康問題の特徴を、身体的・精神的・社会的側面から理解する
2）生活機能障害が対象及び家族の生活に及ぼす影響を理解する
3）対象の健康問題から看護計画を立案し、対象の持てる力を活かした看護援助の方法を理解する
4）医療施設における高齢者とその家族を支える多職種の役割と、チームにおける看護師の役割を理解する
5）高齢者や家族の意思や願いを尊重し、家族支援を含めた看護を理解することができる

3. 実習内容

日　程	内　容
事前学習	老年看護学実習の目的・目標を把握して実習に臨む 老年看護学方法論Ⅰ・Ⅱの学習内容を復習して実習に臨む 提示された事前学習の内用をまとめる
1週目	1 病棟オリエンテーション 2 受け持ち対象紹介、情報収集 3 情報整理と分類 3 対象の情報をアセスメントする 4 関連図を書き、対象の全体像を捉える
2 週目	1 全体像の修正　問題点の抽出 2 看護計画の立案 3 看護計画に基づいた日常生活の援助を行う 3 実践した援助を評価し、看護計画の修正を行う 4 ケースカンファレンス（看護計画の内容をテーマとする） ＊中間評価
3 週目	1 修正した看護計画に基づき看護援助を実施する 2 対象の反応を捉えながら、援助計画の実施・評価する ＊最終評価

4. 実習方法

1）1 名の高齢者を受け持ち、看護過程を展開する
2）毎日、行動計画を指導者に報告し確認（助言）を得てから援助を実施する
3）学生カンファレンスを行い、学生間での問題解決や看護過程の共有化をすることで実習グループとしての学びを深める
4）実習病棟、対象から学ぶことのできる看護技術に対して積極的に取り組む

5. 提出物について

1）登校日は、実習担当教員から実習記録の指導を受ける
2）記録の最終提出の際は、記録用紙を揃えて指定のクリアファイルに挟む

6. 単位修得の認定

1）成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
2）成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 小児の生活を支える看護実習Ⅰ 】　1単位 45時間　2年次

1. 実習の目的
　健康な子どもの成長発達段階を理解し、成長発達を促すための関わりについて学ぶ

2. 実習目標
　1)健康な子どもの成長・発達の特徴を理解する
　2)成長発達段階における個別性に応じた日常生活行動を理解する
　3)子どもの日常生活における健康維持、増進、予防対策、安全対策がわかる
　4)子どもの権利を意識し、子どもの人権を尊重した態度で関わる

3. 実習方法

実習場所	日	内　　容
校　内		学内オリエンテーション 事前学習
保育園(所)	1	オリエンテーション 各教室実習
	2	各教室実習
	3	各教室実習
	4	各教室実習 カンファレンス
小学校	1	オリエンテーション 各教室実習
校　内		実習まとめ・反省会

4. 記録用紙
　1)指定された用紙を使用する

5. 実習中の注意事項
　1)子どもと家族のプライバシーを保持すること
　　個人情報保護に対しての個人の誓約書を記入する
　2)自己の感染症対策を万全にすること
　3)事故防止に心がけること
　4)実習にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いに気をつけること
　5)実習グループとして協力すること

6. 提出について
　1)事前学習および実習課題は、実習2週間前までに担当教員へ提出
　2)カンファレンス記録・実習記録は、次週の登校日に担当教員へ提出
　3)校内実習反省会はグループごとに所定用紙の項目ごとにまとめ、発表し担当教員へ提出

7. 単位修得の認定
　1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
　2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 小児の生活を支える看護実習Ⅱ 】　1単位 45時間　3年次

1. 実習の目的
　子どもの成長・発達段階及び健康問題について理解し、子どもとその家族への看護の方法について学ぶ

2. 実習目標
　1)成長発達段階及び健康問題に応じた看護を理解する
　2)健康問題が子どもとその家族に及ぼす影響を理解する
　3)子どもの成長発達段階に応じた安全・安楽な看護技術の方法を理解する
　4)子どもを取り巻く環境、及び保健・医療・福祉の動向について理解する
　5)子どもの権利の尊重について理解する

3. 実習方法

週	日	内　　容	記録用紙
学内		学内オリエンテーション　事前学習	
1週目	1	オリエンテーション 病棟実習　カンファレンス	
	2	病棟実習　カンファレンス	
	3	病棟実習　カンファレンス 中間評価(全員でカンファレンス)	
2週目	4	病棟実習　カンファレンス	
	5	病棟実習　最終評価(個別)・カンファレンス	

外来実習

4. 記録用紙
　1)指定された用紙を使用する

5. 実習中の注意事項
　1)小児と家族のプライバシーを保持すること
　　個人情報保護に対しての個人の誓約書を記入する
　2)自己の感染症対策、健康管理を万全にすること
　3)事故防止に心がけること
　　所在を明らかにして行動する
　　報告・連絡・相談をすること
　4)実習にふさわしい服装、身だしなみ、言葉遣いをする
　5)実習グループとして協力すること

6. 提出について
　1)事前学習記録は2週間前までに担当教員に提出
　　実習課題用紙　実習計画用紙(初日のみの計画)は1週間前までに担当教員に提出
　2)指定された実習記録一式は、実習終了後1週間以内に担当教員へ提出

7. 単位修得の認定
　1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
　2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 母性の生活を支える看護実習 】　2 単位 90 時間　3 年次

1. 実習の目的

周産期における看護の実践活動を通し、妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族に必要な援助の臨床判断能力を習得する。また、女性のライフステージにおける健康問題について、生殖および性の視点から対象を捉え、セルフケアが維持増進できる支援について学ぶ

2. 実習目標

1)妊娠・分娩・産褥期および新生児期の特徴を捉え、正常な経過を理解することができる
2)妊産褥婦の経日的変化を捉え、個々に必要な保健指導を考えることができる
3)新生児の生理的変化を理解し、子宮外生活への適応に必要な援助ができる
4)母子およびその家族が新しい役割に適応するための援助を考える
5)母子とその家族に対する継続看護の必要性が理解できる
6)ウエルネスの視点で対象を捉え、セルフケア能力を高める援助が理解できる
7)自己の母性観・父性観を深めることができる

3. 実習方法

	内　容
褥室 新生児	・初日にオリエンテーションを受ける ・産褥 0 日目以降の褥婦を受け持つ ・生後 0 日目以降の新生児も共に受け持つ ・褥婦の日々の観察は指導者と共に実施する ・新生児の日々の観察は沐浴時に実施する ・褥婦の各種保健指導を見学する ① 授乳指導 ② 沐浴指導 ③ 退院指導 ・新生児の検査を見学する
分娩室 LDR	・初日にオリエンテーションを受ける ・承諾をいただいた産婦さんの分娩期に入る ・指導者と共に必要な援助を実施する ・褥室へ帰室するまでの一連を見学実習する
外来	・妊婦健診　・内診室の看護　・2 週間健診 ・1ヶ月健診　・産褥外来　・母乳外来
指導	・両親教室 ・各サークル
評価	・最終評価のみを実施

4. 提出について

1)日々の提出記録は上記のとおりとする
2)それぞれのセクション別(担当の指導者あて)に教員に提出する
3)事前学習、事後学習などのレポートは随時教員に提出する
4)評価日当日の朝、実習記録一式をNo.順に綴じファイルに入れ担当教員に提出する
5)最終提出は教員とし、本実習が終了した次週の登校日を〆切とする

5. 単位修得の認定

1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。

2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 精神に障がいのある人の生活を支える看護実習 】2 単位 90 時間 3 年次

1. 実習の目的
（人間のこころの健康増進と疾病予防への援助活動を理解し、）精神に障がいのある対象の理解と自立に向けたセルフケア向上への援助および地域で生活するための社会復帰に向けた看護の実践に必要な能力を習得する

2. 実習目標
1）精神に障がいのある対象の言動の意味を考える
2）精神に障がいのある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する
3）精神に障がいのある対象のセルフケア維持と向上の為に必要な日常生活の援助を考え実施できる
4）精神病棟における治療的環境を理解し、対象の安全と自己の安全に配慮した行動ができる
5）看護場面における自己の感情やその変化に気づき、自己洞察できる
6）治療チームの一員として協力し、社会復帰に向けた必要な援助を考える

3. 実習方法

日　程	内　　容
登校日	学内オリエンテーション　事前学習、実習の課題提出
初日 2日目 ～ 4日目 5日目	・病棟のオリエンテーションを受ける ・精神科病棟に入院中の対象との関わりを持つ（指導者の指示に従い、複数の対象と関わる） ※関わった対象で気になる場面があった際、指導者に確認し、カルテや看護記録あるいは対象との関わりから必要な情報を収集することでその意味を考える ・精神に障がいのある対象に対して、関わりを通して日常生活における必要な援助を行う。さらに関わった援助に対して振り返りを行い、次に活かす ・音楽談笑などのレクレーションを計画し実施する ・精神に障がいのある対象との関わりで気になった場面をプロセスレコードにまとめ振り返る。 ・作業所での実習を通して、社会復帰に必要な社会資源やサポート体制について考える ※5日目頃に中間評価・中間カンファレンス
登校日	実習記録指導
6日目 ～ 9日目 最終日 （10日目）	・看護師と共に援助を行い実施したことを振り返り、次の計画にむけ必要時修正する ・デイケアや訪問看護の見学を通して、精神に障がいのある対象に必要な社会資源やサポート体制について考える ・精神に障がいのある対象との関わりで気になった場面（上手く関われなかったことだけでなく、良い関わりができていたところも含め）をプロセスレコードにまとめ振り返る ・反省会（実習目標の達成度、精神に障がいのある対象との関わりを通しての学び 精神に障がいのある患者への看護についての気づき、自己目標の達成度） ・最終評価・最終カンファレンス

4. 実習中の注意事項
1）対象のプライバシーを保持すること
2）自己の個人衛生と精神保健に留意すること
3）実習グループとして協力すること

5. 提出について
1）指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
2）提出は実習担当教員へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定
1）成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
2）成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 健康状態別看護実習 】 2 単位 90 時間 2 年次

1. 実習の目的: 対象に応じた看護の実際を学び、看護援助の根拠から援助の必要性を理解する

2. 実習目標
   1) 対象が受けている看護援助を見学または看護師と共に実施し、必要性を考えることができる
   2) 対象が受けている看護援助と、対象の発達段階、基本的欲求と照らし合わせることができる
   3) 対象との関りや情報、看護援助から対象の健康障害及び治療を踏まえて科学的根拠を考えることができる
   4)看護専門職として、ふさわしい態度・言葉使いを身につける

3. 実習方法

日程	内　　容
前日	事前学習　実習の目標と初日の行動計画を立てる
初日	・病棟のオリエンテーションを受ける （病棟の機能、行われている看護援助、1 日のスケジュール病棟内配置　など）
2 日目 以降	・看護師の援助のスケジュールに合わせ見学をする(または、看護師と共に実施) ・行った援助について、対象の反応や看護師の助言から、実施した援助の振り返りを行う ・改善や修正を行い次の援助に向け準備する ・見学や実施した援助の対象者の情報を収集する （入院時データベース、現在の行われている治療や病状の観察、看護援助）
5 日目 学内	・得た情報を基に実践・見学した援助を整理する(行った看護援助から、なぜその援助が必要だったのかを病態や、対象の健康状態を調べ結びつけて考える) ・行った看護援助技術を振り返り、改善点を確認する 中間評価(評価表に準じて評価を行う)
6 日目 以降	・学生 2 名で 1 名の患者を 4 日間担当する ・6 日目は指導者または担当看護師の観察や援助の見学をする ・7～9 日は、環境整備やバイタルサイン測定、他の看護援助は、指導者・担当看護師または教員と実施する ・受け持ち対象へ自己紹介をする ・看護師と共に受け持ち対象の援助に参加する ・見学や実施した援助の対象者の情報を収集する （入院時データベース、現在の行われている治療や病状の観察、看護援助） ・情報の整理や実施した援助の振り返りから、必要な援助の根拠を明確にする ・病棟の援助計画を参考にして、対象に必要な援助を考え行動計画に取り入れる ・実施した援助を振り返り、次回の援助に活かすことができるように記録を整理する ・行った看護援助の根拠を捉え記録する
最終日 (10 日目) 学内	最終評価(評価表に準じて評価を行う) ・助言を基に記録等を修正する 情報共有会 ・グループごとに、実習全体を振り返る ・テーマに沿って振り返りをまとめる

4. 実習中の注意事項
   1)朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
   2)日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
   3)聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
   4)決められた服装で実習に臨む
   5)時間を厳守する
   6)グループでの行動を意識して協力する
5. 提出について
   1)担当教員から指示された記録物をファイルに入れて提出
   2)提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する
6. 単位修得の認定
   1)成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
   2)成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。

【 看護の統合と実践実習Ⅰ 】 1単位 45時間 1年次

1. 実習目的 地域で療養・生活している対象を理解する

2. 実習目標
   1)地域で療養・生活している対象の身体的・心理的・社会的特徴を把握し、対象にあったコミュニケーションをとる
   2)対象の発達段階を理解し、加齢による機能低下や障害を持ちつつ自立を目指す対象の理解を深める
   3)施設における対象の安全に配慮された生活環境を理解する
   4)対象とその家族をとりまく保健・福祉・医療機関を知り、施設における多職種間の連携の重要性を理解する
   5)対象の尊厳及び権利を尊重した態度を身につける

3. 実習場所 介護老人保健施設・介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)

4. 実習方法

	内 容	
高齢者スポーツ大会1日	補助員として大会に参加し、尊敬の気持ちを忘れないで対象とコミュニケーションをとる	
施設実習	1日目	オリエンテーション(施設の概要)、 施設見学 受け持ち対象となる利用者の情報収集 職員とともに日常生活援助見学・実施 (カンファレンス)
	2日目 3日目	行動目標を明確にして、実習に臨む 職員とともに日常生活援助見学・実施 (カンファレンス)
	4日目	行動目標を明確にして、実習に臨む カンファレンス・反省会

5. 実習中の注意事項
   1)実習中知り得たすべての情報について口外しない(守秘義務)
   2)生活援助は、必ず職員とともに見学・実施する
   3)自己判断で行動することなく、指導者・教員への報告・連絡・相談を怠らない
   4)自身の心身の健康管理に十分配慮する

6. 記録物について
   1)事前学習は指定期日に領域担当教員へ提出する
   2)実習終了後、記録用紙・評価表(自己評価したもの)をファイルに入れ、指定期日に担当教員へ提出する

7. 単位修得の認定
   1)成績の評価 実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の3分の2に満たない場合、評価を受けることができない。
   2)成績評価の基準 実習成績は、単位修得の認定に基づき、100点を満点として評価し、60点以上を合格とする。

【 看護の統合と実践実習Ⅱ 】　2 単位 90 時間　3 年次

1. 実習の目的

病棟管理や看護専門職としての役割を理解し、チーム医療における一員として医療・保健・福祉との連携を踏まえて、チーム医療に参加し、メンバーシップ及びリーダーシップとしての役割や多職種との連携・協働を学び、援助の優先順位を考え安全に看護を実践できる

2. 実習目標

1) 病棟管理の実際や他部門調整等の見学を通して看護管理の実際を学ぶ
2) 組織として安全で質の高い看護がどのように提供されているかを理解する
3) 対象に潜む医療事故の危険因子を総合的にアセスメントし、援助の優先度を考えながら状況に応じた看護実践ができる
4) チーム医療における他職種との協働の中で看護師の役割を理解する
5) 専門職としてふさわしい態度を身につける

3. 実習方法

日程	内　容
事前	事前学習提出　実習目標記入　初日の行動計画記入
0.5 日間	・病院管理や病棟管理、看護部と他部門との調整方法についてオリエンテーションを受け看護管理の役割を学ぶ ・医療安全における医療安全管理者の役割についてオリエンテーションを受ける
9.5 日間 (夜間 2 日間含む)	・複数の対象を受け持ち、看護援助を実践する ・受け持ち対象の紹介、情報収集開始 ・対象の健康問題を抽出し、病棟の看護計画と照らし合わせながら看護問題の優先順位を決定する ・問題解決のための援助を計画し、実施可能な援助を確認する ・援助を行い実施したことを評価し、次の計画にむけ必要時修正する ・看護要約は受け持ちの中から一人の対象を選定し作成する ＊援助の実施は受け持ち以外でも対象の同意を得て、状態に応じた援助を計画し実施する
夜間実習事前	・実習前に、夜間体制や業務内容のオリエンテーションを受ける 夜間実習時間　16:00～翌日 9:00(仮眠含む)
夜間実習 2 日間	・勤務交替時の申し送りを受ける ・夜間の対象の状態を把握する。(受け持ち優先) ・夜間を通して業務内容の実施や、受け持ち対象の看護援助を実践する ・勤務交替時の申し送りを行なう。(受け持ち優先)
5 日目	中間評価　自己評価発表後半に向けて助言を受ける
登校日	学校にて実習の振り返り　記録の指導
最終日	最終評価　自己評価発表し目標到達状況について確認

対象への説明書・同意書は学生が同じ対象を受け持つときは連名とする

4. 実習中の注意事項

1) 朝、自分の行動計画を発表し、実施可能な援助か助言を受ける
2) 日々の行動計画の助言、印鑑は日々の実習終了時にいただく
3) 聴く態度、言葉遣いなど相手を尊重した態度をとり、実習中知りえたことは口外しない
4) 決められた服装で実習に臨む
5) 時間厳守
6) グループでの行動を意識して協力する

5. 提出について

1) 指定された実習記録一式をファイルに入れて提出
2) 提出は実習担当者へ、次週の登校日に提出する

6. 単位修得の認定

1) 成績の評価　実習評価は、実習目標の達成度及び実習への参加態度、実習記録類、実習課題の提出内容、出席状況について、自己評価・担当教員及び実習指導者からの情報提供も加味し、総合的に評価する。また、各科目の出席時間数が全時間数の 3 分の 2 に満たない場合、評価を受けることができない。
2) 成績評価の基準　実習成績は、単位修得の認定に基づき、100 点を満点として評価し、60 点以上を合格とする。